

陸 上 競 技
アナウンサーのしおり
(2017年度版)

2017年6月

公益財団法人 日本陸上競技連盟
競技運営委員会

まえがき

1971年に「通告のしおり」が初めて刊行されて以来、競技規則の改正、各種競技会での実践や研修会の成果等を踏まえて、数次にわたる改訂や増補が行われ、2001年に「通告のしおり」を全面的に見直して、リニューアルした「陸上競技アナウンサーのしおり」を発刊した。

「陸上競技アナウンサーのしおり」の基本的な内容は「通告のしおり」を踏襲しつつも、基本的留意事項をまとめた「基本編」と実際の競技会での活用を想定した「実践編」を中心に、実例を豊富に盛り込むことでアナウンス内容の目線の統一と、「実際にどのようにアナウンスしたらよいかわからない」という初心者を考慮して編集された。さらには「研究編」として、アナウンスを巡る諸問題について、今後あるべき方向性を探るべく論点を整理した内容であった。

その後、2008年に「全国陸上競技イベント・プレゼンテーション研修会」が開催されるにあたり、関連する内容をさらに充実させ、観衆を魅了する競技会を目指したものに改訂した。

今回の改定では、情報処理技術の進展に伴うアナウンス方法の変化や足許の動向を踏まえ、アナウンス内容の見直しと充実化を図ると共に、2020年の「東京オリンピック」開催も視野に、「見せる（魅せる）」競技会運営を意識した、より実践に沿ったものとなることを心掛けて編集した。

2017年6月

公益財団法人日本陸上競技連盟
競技運営委員会

目次

I 序

1	競技会とアナウンサー	1
2	アナウンサーの役割	1
3	アナウンサーとしての心構え	2
4	アナウンサーとしての資質	2

II 基本編

1	アナウンサーの基本的任務	3
2	アナウンス上の心得	4
3	アナウンスの用語	5
4	アナウンスの練習方法	7
5	競技会に臨むための準備	8
6	初心者が特に注意すべきこと	8
7	トラック競技偏重を避けるために	9
8	アナウンサーの編成と分担	9
9	アナウンス内容の取捨選択	10

III 実践編

■ トラック競技

1	全般的な留意事項	11
2	紹介	11
3	不正スタート・スタートのやり直し	17
4	途中経過・描写等	17
5	途中時間	18
6	フィニッシュ	19
7	成績発表	21
8	ライブリザルト表示を活用したフィニッシュと成績発表	25

■ フィールド競技

1	全般的な留意事項	27
2	紹介	27
3	途中経過・描写等	28
4	競技終了	32
5	成績発表	33

■ 混成競技

1	全般的な留意事項	37
2	紹介	37
3	途中経過・描写等	38
4	成績発表	39

■ 道路競技

1	全般的な留意事項	41
2	スタート前の紹介等	41
3	途中経過・描写等	43
4	成績発表	44

■ 競歩競技

1	全般的な留意事項	45
2	スタート前の紹介等	45
3	途中経過・描写等	46
4	成績発表	46

■ 表彰・式典

1	共通事項	47
2	表彰	47
3	式典	49

■ その他のアナウンス

1	アナウンス要領	50
---	---------	----

IV 研究編

1	競技会の規模や性格に応じたアナウンスのあり方	52
2	競技会のディレクターとしてのアナウンサーの役割	54
3	競技場の設備環境に応じた工夫	55
4	競技会を盛り上げるために	56
5	フィールド競技の描写を充実させるために	57

【参考】	イベント・プレゼンテーション・マネージャー	59
------	-----------------------	----

I 序

1 競技会とアナウンサー

「陸上競技会」に関し、日本陸上競技連盟が公認する競技会の成立要件は主催者に係わることに加え、以下のように定められている。

本連盟が公認する陸上競技会は、次の要件をみたすものでなければならない。

- 1 参加競技者の全員が競技者の資格を有していること。
- 2 本連盟競技規則によること。
- 3 本連盟の公認競技場で開催すること。
- 4 審判員は、補助員を除きすべて公認審判員であること。

〔国際陸上競技連盟競技会規則及び国内適用 第2条 本規則の国内適用〕

競技会は競技規則に合致して行われるのが大前提だが、次のように考えることもできる。

- (1) 競技者にとっては勝負の場であり、記録に挑戦する公式の場である。
- (2) 競技役員にとっては審判技量を発揮し、競技者の挑戦に応える場である。
- (3) 観衆にとっては記録に挑戦する競技者を応援し、競技者の動きや記録に感激・共感する場である。

陸上競技会におけるアナウンサーは単に競技規則に定められたことを行うだけでなく、競技者・競技役員・観衆等の全ての関係者を念頭に、何が求められているのか、果たすべき役割は何かをよく考えながらマイクに向かう必要がある。

2 アナウンサーの役割

アナウンサーの任務は、競技規則第134条に以下のように定められている。

アナウンサーは、観衆に対して各種目の参加競技者の氏名、(可能ならば)ナンバー、予選の組合せ、抽選で決まったレーン順あるいは試技順及び途中時間等の情報を知らせなくてはならない。各種目の結果(順位、時間、高さ、距離、得点)は、情報を受け取ったならば、できるだけ早く発表しなければならない。

これらはアナウンサーの基本的な任務として行わなければならないことだが、競技規則や見所の解説、描写によって観衆に興味を抱かせ、競技者と観衆が一体化するように、競技会の司会者的な役割やEP(イベント・プレゼンテーション)の一端を担うことも求められている。

3 アナウンサーとしての心構え

- (1) 記録を明確に伝達する。情報を音声（ことば）によつて的確に伝達することが基本である。基礎・基本がしっかりしていなければ、伝えたいことがきちん伝わらない。
- (2) 音声（ことば）には人柄が出る。話し方のテクニックの習得も大切だが、それだけを追い求めて心がこもっていなければ意味がない。
- (3) わかりやすく伝えることができるように、話し方・読み方の研鑽を常に心がける。味わい深いふるさとのことばも大事にしたい。
- (4) アナウンサー以外の審判の経験も積み重ねる。各種の経験が陸上競技への理解を深め、自信や実力となつて、ことばに現れる。
- (5) 競技規則、記録等に興味・関心を持ち、理解し、情報収集に努める。
- (6) 競技会に臨む際には、体調を十分に整えておく。体調が不十分では、ことばの響きを感じられない。「生き生きした声、張りのある声」を意識する。
- (7) 「公認審判員としてのアナウンサー」であることを自覚し、競技会全体を客観的に見るよう心がける。
- (8) 自分のことば・喋りに酔わない。感情を入れすぎない。主役は競技者であつて、アナウンサーではない。
- (9) 沈黙を恐れない。敢えてコメントを入れず、競技を見せることも時には必要である。

4 アナウンサーとしての資質

- (1) 良い審判員であること
 - ① 審判員としてアナウンサー以外の部署でも十分に経験を積む
 - ・最初からアナウンサーのみに専従するのは好ましくない。
 - ・B 級の間にならぬ部署を経験し、A 級になってからアナウンサーを目指すのが望ましい。
 - ② 競技規則、選手のプロフィール、記録など陸上競技事情に通じている
 - ・競技規則全般の他、競技会運営にも通じている。
 - ・競技会に出場している主な選手の記録はもとより、世界記録や日本記録、学生記録等にも精通している。
 - ・開催されている競技会の歴史や性格、位置付けなども理解している。
 - ③ 競技者としての経験もあるとなおよい
 - ・競技者の苦労や考え、精神状態がよくわかる。
- (2) 共通語（全国共通のことば）をきちんとマスターすること
 - ① 音声の良否
 - ・高すぎない。低すぎない。速すぎない。遅すぎない。大きすぎない。弱々しくない。
 - ・唇が動かない。ハッキリしない。こもつて陰気、鼻にかかる、深味がなくて軽い、濁つて鈍重、ふくらみがなく貧弱、力んで粗野、紋切り型で事務的ではいけない。
 - ・音声が聞き取りやすい。
 - ② 発音・イントネーションの正しさ

II 基本編

1 アナウンサーの基本的任務

(1) 競技規則第134条

- ① 各種目の参加者、（必要ならば）ナンバー、所属、レーン、跳躍・投てき順の紹介発表
- ② 途中経過等すべての関係ある情報の発表
- ③ 各種目成績の発表

- [注] 1 紹介や発表にあたっては、トラック競技のスタート、フィールド競技の試技に悪影響を及ぼさないようタイミングに留意する。
- 2 トラック競技においては、審判長、写真判定員主任、計時員主任等とあらかじめ打ち合わせを行い、成績（順位・時間）及び途中時間等を速やかにアナウンスできるようにする。
 - 3 成績の発表は記録情報から受け取ったら、できるだけ早く、わかりやすく発表する。トラック競技の成績発表は、次の組の紹介前に終了するように努力する。フィールド競技の成績発表も後回しにしない。
 - 4 コンピューターによる競技会運用システムを採用する大会では、PC等の画面を見ながら速やかにアナウンスする。

(2) 総務の指示事項並びに一般アナウンス事項

- ① 第134条に準拠する内容以外で総務から指示された事項
 - ・競技会開始前の時刻の規正
 - ・気象状況の定時アナウンス
 - ・表彰時のアナウンス
 - ・役員、競技者への伝達
 - ・競技運営上必要な観衆への指示、伝達
- ② 総務の承認と指示のもとにアナウンスする事項
 - ・競技に関係のない呼び出し等

(3) 特に留意を要する競技規則

- ① 全般
 - ・第132条 記録の流れ、略号
 - ・第141条 1：年齢区分
 - ・第143条 1：服装、2～6：競技用靴、7～11：ナンバーカード
 - ・第144条 助力
 - ・第146条 2：抗議に対する措置並びにアナウンス時刻の記入
 - ・第147条 男女混合競技
- ② トラック競技
 - ・第160条 3：距離の起端・終端、4：レーン
 - ・第162条 5：スタートの中止、6～8：不正スタート
10：長距離走の階段式スタート
 - ・第163条 1：走る方向、3～5：レーン侵害行為
12、13：風力計測

- ・ 第165条 3：途中計時
800m以上のレース＝1周ごとの時間
3000m以上のレース＝1000mごとの時間
- ・ 第165条 計時の単位、記録の発表方法
4～12：手動計時、13～23：写真判定
24、25：トランスポンダー
- ・ 第166条 トラック競技におけるラウンドの通過
- ・ 第167条 トラック競技の同成績
- ・ 第170条 6：バトン落下時の対応、10～11：リレーのオーダー
- ③ フィールド競技
 - ・ 第180条 5、6：試技順と試技
9～16：フィールド競技の予選
18：試技時間、21：競技成績、22：同成績
 - ・ 第181条 5：高さの跳躍の計測、8：順位、9：ジャンプオフ
 - ・ 第184条 8、9：長さの跳躍の計測、10～12：風力測定
 - ・ 第187条 1～3：公式用器具（第183条11：棒高跳用ポール）
19、20：投てき競技の計測
- ④ 混成競技
 - ・ 第200条 7：混成競技の試技順、組み合わせ
8：単独種目との相違点（試技数、不正スタート）
10：途中棄権、11：得点発表、12：同得点

2 アナウンス上の心得

- (1) 落ち着いて、あわてず、あせらず、口に物を入れず・含まず、マイクに正対し、感度を十分考えて。
- (2) 生き生きとした、張りのある声で（発奮させる）。
- (3) 普通の声量で。音量はマイクで調整する。
- (4) 話すスピード・間のとり方に留意。
- (5) 数字の語尾は若干あげて明瞭に。
- (6) 暗いイメージ、雰囲気をおそろしようなイメージの言葉は避ける（不快なイメージのない言葉の選択）。
- (7) 成績（リザルト）発表や描写は、トラック競技（特にスタート時）やフィールド競技の試技に支障のないように。
- (8) 成績（リザルト）の内容（ページ、順位、風速等）をよく確かめて。
- (9) アナウンスの終わった原稿にはアナウンス済みのチェックをし、アナウンス時刻及びアナウンサー名を必ず記入（抗議に対する措置）。PC等を使用する場合は、手許のプログラムや進行管理表に記入。
- (10) 読みにくい文字、判読しにくい人名、地名、所属名等は事前に確認（事前にプログラムを入手するとよい。出発係に無線で確認依頼をすることも）。
- (11) 紹介時にスタートリストが届いていない場合の対応方法を考えておく（双眼鏡で出場者のナンバー確認、無線で競技者係や出発係に問い合わせる等）。
- (12) 雨天、荒天、炎天時には、アナウンスのために競技者を待たせない。

- (13) 本来の任務（紹介、描写、成績発表、式典、表彰等）以外のアナウンスは、総務の承認を得たもの以外は行わない。
- (14) テレビやラジオの実況放送アナウンサーのような絶叫調のアナウンスはしない。
- (15) 起語と結語をはっきりさせる。

3 アナウンスの用語

- (1) 男子は「君」、女子は「さん」
- (2) 種目名

テレビやラジオでの言い方とは異なる点に注意する。

	誤	正
100m	100 メーター	100 メートル競走
800m	800 メーター	800 メートル競走
110mH	110 メーター ハードル競走	110 メートル ハードル
3000m S C	3000 メーター障害物競走 ステイプル チェイス	3000 メートル障害
5000mW	5000 メーター ウォーク 5000m ウォーキング レース	5000 メートル競歩
4×100mR	4 カケル 100 メーター リレー	400 メートル リレー
4×400mR	4 カケル 400 メーター リレー	1600 メートル リレー
100m+200m +300m+400mR	スウェーデン リレー	メドレー リレー

- ・ カテゴリーを細分化しないで実施する競技（男女別のみ）
【性別＋種目】 男子棒高跳、女子10000m
- ・ カテゴリーを細分化して実施する種目
【カテゴリー＋性別＋種目】 少年A男子100m、中学1年女子走幅跳
対校男子800m、オープン女子砲丸投

- (3) 数字の読み方

	誤	正
0	ゼロ（英語）	レイ（日本語）
4	シ（聞き取りにくい）	ヨン
7	シチ（1「イチ」と区別しにくい）	ナナ
8	ハッ（聞き取りにくい）	ハチ

- (4) 紹介

- ① 「10時から競技が開始されます」（時間に関して「より」は使わない。「より」は比較等の意味で使う）。
- ② スクリーンや、携帯サイト、webサイト等に掲載されることや、時間短縮の観点から「ナンバー（番号）」を省略するケースが増えている。
- ③ 短距離走の場合、紹介時には「第1レーン～」（「第」を冠した方が響きがよい）。
- ④ オープンレーンで行われる中長距離走の場合、「レーン」「オーダー」と

は言わない。そもそも概念がない。

⑤ フィールド競技の場合、「第1跳躍者」「第1投てき者」とは言わない。

(5) 記録の読み方

① 時間

- ・原則として、普段使わない時間や数字の読み方・言い方はしない。
- ・表記と読み方……記録情報処理では、60秒を超える場合「1分02秒13 (1.02.13)」のように表すようになったが、通常、競技者はラップタイムも含め90秒前後までは「秒単位」で認識していることから、アナウンスでは「62秒13」でよい。「分単位」を用いて発表する場合は、当該競技会のアナウンサー全員で統一する。
- ・電気計時の秒未満の数字は一文字一文字で読む。
例) 10秒22……「にじゅうに」ではなく、「にいいい」と読む。
- ・十秒、十分の単位が「0」の場合
例) 2分05秒27……十秒の単位を「れい5秒」とは言わず、分と秒の間に「一呼吸」入れて「5秒」と言う。
例) 2分00秒00……秒の単位は「れい・れい」秒ではなく「れい」秒。
秒単位未満は「れい・れい」と言う。
例) 2時間01分06秒……分の単位を「れい1分」とは言わず、時間と分の間に「一呼吸」入れて「1分」、秒の単位を「れい6秒」とは言わず、「6秒」と言う。

② 距離や高さ

- ・「m未満」の十の位が「0」の場合
例) 2m03……「2mれい3」とは言わず、「2m」の後に「一呼吸」入れて、「3」と言う（言い切る）。
例) 2m00……「2mれい・れい」「2mちょうど」とは言わず、「2mれい」と言う（言い切る）。

(6) 項目名・順位等

① 競技等による項目名等の使い分け

- ・トラック競技……「着」「時間」
- ・フィールド競技……「等」「記録」
- ・混成競技……（トラック競技）「時間」「得点」
（フィールド競技）「記録」「得点」
（総合成績）「第〇位」「得点」
- ・複数組で行われた場合の総合順位や表彰……「第〇位」

(7) 風

① 競技中の風の状態…「向い風（むかいかぜ）」「追い風」

- ・「プラス（マイナス）の風」とは言わない。
- ・「+1.0」は「追い風1メートル」
- ・「-0.9」は「向い風0.9メートル」
- ・「±0.0」は「風はありませんでした」

(8) 途中経過・描写

- ① 「圧倒的な強さ」「負けている」等の形容は避け、「先頭（トップ）」「続いて」「2番目・3番目」等の言い回しを心がける（「2番手」「3番手」の形容は避ける。「番手」は登場する順番を表す語であり、競馬や競輪のテレビ・ラジオ中継では聞くが、陸上競技のアナウンスでは使わない）。
- ② 「失敗した」「諦めた」等の否定的な意味の強い形容も控える。「クリアできなかった」「赤い旗が上がって」「出場していない」「途中で競技をやめている」等の言い回しを工夫する。

(9) 結果発表

- ① 「時間」「記録」「得点」などの項目名は最初の一人だけにつける。
- ② スクリーン（電光掲示板）を利用する場合は「ページ番号」を省略してもよいが、使用しない競技会では「ページ番号」もアナウンスする方が親切。

(10) 重複言葉を避ける

- ① この時の風は追い風1.1mでした → 追い風1.1mでした
- ② 先頭は〇〇君、続いて△△君、□□君と続きます
→ 先頭は〇〇君、続いて△△君、□□君です

(11) 時を示す用語の使い分け

「先ほど終了した」「ただいま終了した」「ただいま行われている」「この後行われる」「間もなく行われる」

(12) 「書き言葉」ではなく「話し言葉」を使い、わかりやすい表現を心がける。

(13) 流行語や使用する世代が偏った言葉は使わない。

- ① 「わりかし」「すごい」「やばい」「かっこいい」等
- ② 平板型発音
- ③ 半疑問（「語尾上げ」）

(14) 使ってはいけない言葉

- ① 不適切な用語（差別語）
- ② 具体的商品名（スポンサー保護の観点から）
・遺失物の連絡で、「〇〇社製、青の26cmのスパイク」等の表現は可

(15) 機器・器具名称・設備名称

- ① 陸上競技で使用する機器・用器具名称を正しく理解する。
- ② 設備名の言い方を当日のアナウンスチーム内で統一する。
例）電光掲示板かスクリーンか、スコアボード・ビデオボードか

4 アナウンスの練習方法

- (1) 『習うより慣れろ』。「しおり」を読むだけでなく、より多くの実践が必要。
- (2) 多くの競技会で経験を積んだベテランのアナウンスをよく聴く。「聴いた内容を自分が実践してみる」あるいは、「参考になるアナウンス内容をメモする」といった積み重ねが必要。
- (3) 現場でのアナウンスを録音したり撮影し、聴いて・観て研究する。
- (4) 担当する競技がない時間に「競技エリアで選手の目線で」「スタンドで観衆目線で」他のアナウンサーのアナウンスを聴く。
- (5) 競技会後に反省会を行い、互いに研鑽を深める。

5 競技会に臨むための準備

- (1) プログラムを事前入手するよう心がける
プログラムは当日の受付で配布されることが多いが、事前に入手できれば競技者のプロフィール（自己ベスト、シーズンベスト、ランキング、タイトル等）や難読名の下調べができる。全国大会、国際大会等では、事前入手が必須であり、主催者や大会事務局とコンタクトを取ること。
- (2) 持参する用品類
 - ① ルールブック、ハンドブック
 - ② 用箋挟（クリップファイル）
 - ③ ストップウォッチ
 - ④ 双眼鏡
 - ⑤ 筆記具
 - ⑥ 時刻の規正された時計、ラジオ
 - ⑦ 競技会の規模・性格に応じて、ラップタイム表、記録集等
 - ⑧ 混成競技が実施される場合は、採点表と電卓
- (3) 競技場には遅くとも競技開始1時間前には到着する
- (4) プログラムの確認
 - ① 日程（タイムテーブル）
 - ② 表彰の有無
 - ③ 注意事項（招集の仕方・招集時刻、次ラウンド進出の方法、予選通過標準記録、長距離種目の打ち切り時間、バーの上げ方等）
- (5) 体制の確認
 - ① 何名で担当するのか（「8 アナウンサーの編成と分担」参照）
 - ② マイクの設置本数
 - ③ コンピューターによる情報処理の有無。PC等のモニターの設置台数
 - ④ 記録用紙の流れ、紙（印刷物）の記録掲示方法・場所
 - ⑤ 他の部署との連携方法、無線等の回線
 - ⑥ 音楽使用の有無
 - ⑦ スクリーン（大型映像）使用の有無

6 初心者が特に注意すべきこと

- (1) 全般
 - ① 力みすぎ、あるいは声にハリがない
 - ② 種目名の言い誤り（例：3000m障害物競走）
 - ③ マイクに正対しない
 - ④ マイクに近づきすぎる
 - ⑤ しゃべり方が速い
 - ⑥ 語尾が不鮮明
- (2) 紹介
 - ① 「～m競走予選」の言い方で、「競走」と「予選」をつなげてしまう。
 - ② 選手がすでにスタートラインの後方に並んでいるのに、待たせてしまう。

(3) 途中計時

- ① 途中計時地点を通過しても、なかなかラップタイムをアナウンスできない。
例) 計時地点に到達する前に「先頭は〇〇君、間もなく△△mの通過」までアナウンスしておき、通過と同時にラップタイムをアナウンスすべきところ、通過後「先頭は〇〇君…」からアナウンスを始めてしまう。
- ② 1周目400mの途中計時の言い方(例:66秒を1分06秒)。

(4) 成績発表

- ① (スクリーンを使用しない競技会で)プログラムページを言わないで結果を発表する(プログラムに記入できない)。
- ② (スクリーンを使用しない競技会で)プログラムページを言ったあと、すぐに結果の発表を始める(プログラムを開く余裕がない)。
- ③ 話し方が速すぎる。速さにムラがある(聞き取れない・書き取れない)。
- ④ 数字の語尾が下がる。特に1/100秒の位(聞き取りにくい)。
- ⑤ 風の状況を言い落とす。
- ⑥ 周囲の状況を見ないで発表してしまう(「On Your Marks」の声がかかった後に話し始める/フィールド競技で新記録に挑戦しようと助走の態勢に入っているのに話し始める 等)。

7 トラック競技偏重を避けるために

競技会の進行上どうしてもトラック競技を優先させてしまい、トラック競技に偏ったアナウンスになりがちである。また、新しいアナウンサーを養成する際、トラック競技の方が比較的入りやすく、そちらから取り組ませることが多いため、フィールド競技に不慣れなアナウンサーが多くなっている。

陸上競技会はトラック競技とフィールド競技から成り立っており、フィールド競技にアナウンスの重点を置くことで、競技の魅力をバランスよく伝えられるように努力したい。トラック競技偏重を避けるために、次のような工夫が考えられる。

- (1) トラック競技の予選の選手紹介を省略する(次ラウンド進出条件と組数、出場者数のみを紹介)。
- (2) トラック競技の長距離種目では、途中計時を1000mごとにする。
- (3) フィールド競技担当のアナウンサーを増やす(1種目1名が原則)。
- (4) コンピューターシステムを利用する競技会では、トラック競技担当用とフィールド競技担当用にPC等を複数用意してもらう。コンピューターシステムが利用できない場合は、フィールド競技の一跳一投の記録を手許のプログラムに記入し(補助員がいれば担当させてもよい)、その経過を積極的にアナウンスする。
- (5) トラック競技の合間にフィールド競技の描写アナウンスを多く入れる。フィールド競技の合間にトラック競技を入れる感覚でアナウンスをしたい。

8 アナウンサーの編成と分担

- (1) 競技会の規模により編成も異なるが、アナウンサーは競技種目数にふさわし

い人数で編成される必要がある。複数競技が同時進行する局面では、種目ごとに専担アナウンサーが配置できる人数での編成が望ましい。

- (2) トラック競技偏重を回避するためにも、フィールド競技や混成競技については種目ごとに専担アナウンサーを配置し、一跳一投の描写を行いたい。
- (3) 競技会の性格や規模にもよるが、アナウンサー間の分担は「種目ごと」または「時間帯」で分けるのが一般的。
- (4) 編成されたアナウンサーの人数、経験や技量にもよるが、「常にトラックだけ、フィールドだけ」という分担は避ける。競技やルールに精通し、アナウンスのレベルを向上させるように、各アナウンサーにトラック・フィールドのあらゆる種目を担当させる。
初心者や常時成績発表担当専任にする例があるが、このような分担はアナウンサーの育成上も好ましくない。
- (5) 大規模競技会では、同一種目の全てのラウンドについて同一アナウンサーに解説・見どころ・選手紹介・結果発表・表彰まで一連の流れを担当させ、効率化を図ることが望ましい。
- (6) 分担にこだわりすぎることなく、必要に応じて各アナウンサーが弾力的に対応する。
- (7) 多種目の競技を漏れなくカバーするために、補助員の機動力を活用する。
 - ① 結果発表時刻等のチェックと進行表への記入
 - ② 長距離種目でのナンバーの読み取り、確認
 - ③ フィールド競技の記録を一跳一投ごとにフォロー、プログラムに記入
 - ④ ピット（跳躍・投てきを行っている場所）に行かせて、トップ8の確認
 - ⑤ 難読名等の調査・確認
 - ⑥ 音楽使用時の操作
 - ⑦ スタートリスト、リザルト類の整理

9 アナウンス内容の取捨選択

アナウンスの基本は重視しつつも、アナウンスする内容を取捨選択して省力化を図り、競技会を円滑に進める工夫も必要になる。

- ・アナウンスの内容が多すぎて進行に支障を来すようでは本末転倒。
- ・予選組数が多い中で同一アナウンスパターンが繰り返されると、観衆にはかえって聞き取りにくいこともある。
- ・予選と決勝でアナウンス内容に変化をつける。
- ・常にアナウンサーが話し続けている状況は、競技者や観衆にとって苦痛に感じられる。あえてアナウンスを行わないことで、「集中」「間」「余韻」を持たせる。
- ・複数競技が同時進行中の場合、全競技を平等に描写することは不可能。競技の進行状況や記録等から優先順位を考え、「濃淡」をつけたアナウンスを行う。

Ⅲ 実践編

■トラック競技

1 全般的な留意事項

- (1) フィールド競技との関係を考慮しながらも、競技日程に従って競技が遅れることがないように紹介や成績発表のアナウンスをしなければならない。
- (2) 予選、準決勝、決勝のようにラウンドが進む種目では、同じアナウンサーが担当することが望ましい。
- (3) 無線等を活用しながら、出発係等と連携する。
- (4) タイミングに十分な注意が必要。競技の進行状況に注目しながら、「正確」「的確」「迅速」にアナウンスする。
- (5) ともすると饒舌なアナウンスに走りすぎて、フィールド競技に影響を及ぼし、観衆に不快感を与えることもあるので、周囲の状況や雰囲気をも十分に把握した上で、アナウンスする。激しい先頭争いが行われるようなレースでは「絶叫型アナウンス」に陥らないよう注意する。
- (6) 競技開始時刻の基準（「号砲」か「On Your Marks」か）を関係者全員で共有しておく（最近では「On Your Marks」になっていることが多い）。

2 紹介

- (1) セパレートレーンでスタートする種目
 - ① スタート練習が終わり、写真判定員からスターターへの準備完了の合図があったタイミングで、出発係から無線等を用いて準備完了の合図を送ってもらう方法が一般的。
 - ② 紹介アナウンス（Lane by Lane）の内容は
 - 〈 a 〉 種目名
 - 〈 b 〉 プログラム記載ページ
 - 〈 c 〉 大会記録等
 - 〈 d 〉 次ラウンド進出条件
 - 〈 e 〉 組数
 - 〈 f 〉 レーン
 - 〈 g 〉 （ナンバー）出場者名
 - 〈 h 〉 所属であるが、練習を終えてスタート地点に戻ってくるまでに 〈 a 〉～〈 e 〉を事前に紹介しておき、準備完了の合図と同時に〈 f 〉以下を紹介することが望ましい。
 - ③ 紹介が終了したらスターターが直ちに「On Your Marks」の合図が言えるように、話す速さや内容を考える。8名出場て競技者に圧迫感を与えない〈 f 〉～〈 h 〉の紹介スピードは50～60秒程度が目安。
 - ④ トラック競技偏重になるのを避ける観点から、また過密ダイヤを消化するための

工夫として、予選の場合は出場者がプログラムに記載されていることを事前に断る、あるいはスクリーンに表示させることで、レーンごとの出場者の紹介を省略し、出場人数のみをアナウンスする方法が一般的となっている。

- ⑤ 紹介アナウンスを行うのか、省略するのか、事前に出発係と十分な打ち合わせをしておく。また、難読名についてはPC等のモニターでも確認できない場合には(特に所属名)、出発係に選手本人へ確認してもらう。
- ⑥ スターターはアナウンス終了と同時に、「On Your Marks」を言うよう心がけている。紹介の終わりには、「～の出場です」のように結語を必ずつけること。

【例1 基本パターン】（紹介を省略した例）

- ① [時刻] からトラックでは、[種目]、[予選/準決勝/決勝] が行われます。
- ② この種目の大会記録は、○秒○○です。
- ③ (予選/準決勝の場合、次ラウンドへの進出条件) [種目]、[予選/準決勝] は全部で○組行われまして、各組○着までと、○着以下、上位記録○名が決勝へ進みます。
- ④ 予選第1組、8名全員の出場です。
(予選第1組、○レーンを空けて7名の出場で行われます。)

- [注]
- 1 スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。
 - 2 次ラウンドの進出条件に関しては「進みます」「進出します」等の言い方がある。
 - 3 結語として「出場します」「出場です」「行われます」「スタートします」等の言い方がある。
 - 4 欠場者がいる場合は「○○さんは棄権です」とは言わず、「6レーンを空けて、○名の出場です」と言う(時間短縮やメリハリをつける観点から、欠場者のレーンに「第」はつけない)。番組編成で最初から空いているレーンについては、コメントしない。

【例2 予選における簡略化した紹介例】

- ① 15時25分からトラックでは、女子100mハードル、予選が行われます。
- ② 予選は5組行われ、各組3着までと4着以下の上位記録1名が準決勝に進出します。
(次ラウンド進出条件は必ずアナウンスする)
- ③ 予選第1組は、プログラム記載の7名全員が出場します。
(予選第2組はプログラム記載のうち、8レーンを除いた6名の出場で行われます。)

- [注]
- 1 スクリーンに表示する場合は、電光掲示(大型映像)係と連携を取りながらアナウンスする。
例) 「予選第1組はスクリーンに表示の通り、7名全員で行われます」
 - 2 スタートリストをスクリーンに事前に表示してもらう方法もある。
例) 「スクリーンには、次に行われる予選第3組の出場者が表示されています」

【例3 準決勝、決勝の紹介例】

- ① 19時20分から行われますトラック競技は、女子400m競走、決勝です。
- ② 日本記録は51秒75、大会記録は51秒93です。
- ③ そしてリオデジャネイロ・オリンピック派遣設定記録は50秒59、参加標準記録は52秒20です。
- ④ 出場者を紹介します。
第1レーン、榎山 楓さん、至学館大学。
第2レーン、松本 奈菜子さん、筑波大学。
第3レーン、石塚 晴子さん、東大阪大学。
第4レーン、青木 りんさん、相洋高校。 (以下最終レーンまで同じ)
- ⑤ 以上(8名全員)の出場で、女子400m競走、決勝です。

- [注] 1 欠場者がいる場合は「〇〇さんは棄権です」とは言わず、「〇レーンを空けて」と言う。欠場者のレーンに「第」はつけない。一番外側のレーンが欠場の場合はコメントしない。
- 2 以前はナンバーを紹介することが多かったが、最近は名前をフルネームで紹介するケースが増えている(ナンバーを紹介すること自体は誤りではないが、ナンバーよりも名前が重要という考え方による)。
- 3 国際大会等、外国人選手が多数出場する競技会では、「君」「さん」を省略することが多い。
- 4 荒天時や酷暑時には、あらかじめ出発係と打ち合わせの上、先に選手紹介を行ない、アナウンスが終わったタイミングで競技者をスタートラインにつかせる方法もある。

【例4 紹介前の見どころ・解説例】

- ① (出発係からの合図が入る3~5分前に) 20時35分からトラックでは、男子100m競走、決勝が行われます。
- ② この種目のリオデジャネイロ・オリンピック派遣設定記録は10秒01、参加標準記録は10秒16です。
- ③ 決勝の顔ぶれをみますと、今季10秒01をマークし、唯一派遣設定記録を突破している東洋大学の桐生君は6レーンに出場。
既に参加標準記録を突破している2名も出場します。
10秒07をマークしたSEIKOの山縣君は4レーン、10秒10をマークしたドームのケンブリッジ君は5レーン。
さらにロンドンオリンピック日本代表、NTNの九鬼巧君など実力者が揃いました。
- ④ 日本人初の9秒台が期待される男子100m競走、決勝にご注目ください。

- [注] 1 レーン紹介前に解説を入れる場合、同時進行のフィールド競技との兼ね合いに十分注意する。
- 2 紹介する時間に余裕がない場合や天候不順の場合等には、準備完了前(スターティングブロックの調整中やスタート練習中)に、各出場者のプロフィール等を紹介しておく。その際には、スクリーンにスタートリストを事前に表示するよう電光掲示(大型映像)係に依頼してもよい。

- 3 必ず全員のプロフィールを紹介する必要はなく、主要選手のみの主要成績等の紹介でよい（冗長感があることから、3名程度に絞りたい）。特定の競技者に極端に肩入れしたり、応援したりするようなコメントは避けること。事実を淡々と。特にIHやIC等の競技会（対校戦）では公平感にも配慮する。
- 4 資格記録、予選、準決勝の記録を紹介するだけでも、観衆の関心は高まる。

【例5 プロフィールを挿入しながら紹介する例】

- ① （出発係からの合図が入る2～3分前に）
20時35分からトラックでは、男子100m競走、決勝が行われます。
6レーンの桐生君が唯一、リオデジャネイロ・オリンピック派遣設定記録を上回る10秒01をマークしています。そして、4レーンの山縣君が10秒07、5レーンのケンブリッジ君が10秒10とオリンピック標準を突破しています。
日本記録は伊東 浩司君が1998年にマークした10秒00。
- ② 注目の男子100m競走決勝は間もなくスタートです。
（出発係からの合図を受けて）
- ③ 男子100m競走、決勝に出場の8名を紹介します。どうぞ大きなご声援をお願いします。
第1レーン、東日本実業団第3位、馬場 友也君、LALL AC。
第2レーン、ロンドンオリンピック日本代表、九鬼 巧君、NTN。
第3レーン、今年の日学生個人選手権第4位、高橋 周治君、愛知医科大学。
第4レーン、織田記念の優勝者、オリンピック標準突破の10秒07の自己ベストをもつ、山縣 亮太君、SEIKO。
第5レーン、東日本実業団で10秒10をマークし、オリンピック標準を突破している、ケンブリッジ 飛鳥君、ドーム。
第6レーン、10秒01の自己ベストは唯一、派遣標準記録を突破している桐生 祥秀君、東洋大学。
第7レーン、昨年の日学生個人選手権者で世界選手権代表、長田 拓也君、法政大学。
第8レーン、昨年の世界選手権代表、大瀬戸 一馬君、法政大学。
- ④ 以上の出場です。

- 〔注〕
- 1 事前に解説を入れる余裕がなかった場合、紹介時に各選手のプロフィール等を挿入してアナウンスしてもよい。この場合も全員のプロフィール等を紹介する必要はない。
 - 2 「日本記録保持者」等の冠をつけて紹介する場合は、レーンナンバーと氏名の間に挿入する。
例) 第5レーン、日本記録保持者、○○○○さん、△△〔所属〕
 - 3 長く待たせると競技に影響を及ぼすので、プロフィールは最小限に留める。

【例6 リレーの紹介例】

- ① 18時10分から、トラックでは男子400mリレー準決勝が行われます。
- ② 準決勝は3組行われ、各組2着までと3着以下、上位記録2チームが決勝に進みます。

- ③ 日本高校記録は2012年に京都・洛南高校が作りしました39秒64、大会記録は2013年に神奈川・相洋高校が作りしました39秒97です。
- ④ それでは準決勝第1組の出場チームを申し上げます。
第1レーン、春日部東・埼玉
第2レーン、熊本中央・熊本
第3レーン、新居浜東・愛媛 (以下最終レーンまで同じ)
- ⑤ 以上、8チームの出場です。

- 〔注〕
- 1 不慣れな出場者（小・中学生、定時制高校生等）が多い場合には、トラックに出てきて練習を開始した時点で1回、「競技に先立ちまして、レーンの確認をします」等のコメント付きでレーン（「第」はつけない）・チーム名をアナウンスすると親切である（反復するとよい）。
 - 2 各コーナーを見渡し、準備が遅れているコーナーがあれば準備を促すアナウンスを行う。
 - 3 出発係から合図があったら、第2走者以後の準備完了も確認してから紹介アナウンスを始める。

【例7 リレーでメンバーまで紹介する例】

- ① トラックでは、このあと16時00分から、女子400mリレー、決勝が行われます。
- ② 日本高校記録は2015年に東京高校が作りしました44秒48、大会記録は2013年に埼玉栄高校が作りしました45秒23です。
- ③ それでは決勝の出場チームとそのオーダーを紹介します。
第2レーン、市立船橋・千葉。
(第1走者から) 鈴木さん、泉對さん、後藤さん、藤井さん。
第3レーン、東大阪大敬愛・大阪。
井上さん、西田さん、戸谷さん、佐々木さん。
第4レーン、中京大中京・愛知。
臼田さん、久野さん、澤井さん、長谷川さん。
(以下最終レーンまで同じ)
- ④ 以上8チームの出場です。

- 〔注〕 4×400mリレーの場合、オーダーを紹介する時間的余裕がなければ、レース中やバトンパスのタイミングに合わせて、「〇〇高校の第2走者は〇〇君」のように紹介する方法もある。

(2) オープンレーンでスタートする種目

- ① 出場者の多い長距離種目では、出場者が出発係の点呼を受けて、スタート線から軽くウォームアップをし、スタートライン付近に戻り始めた頃がアナウンス開始の目安となる。前もって種目名、次ラウンドへの進出条件、見所等をアナウンスした後、出発係からの合図を受けて、スタート前に選手紹介を行うのが原則。
- ② アナウンスの所要時間がスタート時刻に影響するので、10名1分見当、20名2分見当でアナウンスする。事前に何分前に集合させるか出発係と打ち合わせておく。
- ③ 出場者が多くて時間に余裕がない時には、「出場選手はスタートしてから紹介します」等と断った上で人数のみを紹介し、個々の選手名はスタート後に紹介する。

また、予選においては、プログラムを参考にして欠場者のプログラム記載順の番号と出場人数だけをアナウンスする方法もある。ただし、これらはあくまでも簡略化した方法であり、特に決勝においてはスタート前に出場者名まで紹介できるよう、アナウンス開始のタイミングを考える。

【例8 1500mの紹介例】

- ① 10時00分からトラックでは、男子1500m競走、準決勝が行われます。
- ② 準決勝は2組（ふたくみ）行われ、各組6着までと7着以下、上位記録3名が決勝に進みます。
- ③ 準決勝第1組の出場者は、
西田 歩君、滋賀・日吉。大石 海苑君、静岡・浜松西高中等部。
青木 翔君、栃木・大田原。… （以下、順にアナウンスする。）
- ④ 以上15名の出場です。

【例9 1500mにおける簡略化した紹介例1】

- ① トラックでは10時00分から、男子1500m競走、準決勝が行われます。
- ② 準決勝は2組行われ、各組6着までと7着以下、上位記録3名が決勝に進出します。
- ③ 準決勝第1組の出場者は、スタートしてから紹介します。どうぞスタートにご注目ください。
- ④ （スタートしたあと）出場者は、西田 歩君、滋賀・日吉。
大石 海苑君、静岡・浜松西高中等部。青木 翔君、栃木・大田原。…
（以下全員）
- ⑤ 以上12名です。

[注] 長距離走で出場人数が多いと、選手紹介の途中でラップタイムを挟むことがあるので注意する。

【例10 1500mにおける簡略化した紹介例2】

- ① 10時00分からトラックでは、男子1500m競走予選が行われます。
- ② 予選は6組行われ、各組2着までと3着以下、上位記録3名が決勝に進みます。
- ③ 予選第1組は、プログラム記載の14名、全員の出場で行われます。

【例11 5000mにおける簡略化した紹介例】

- ① 13時30分からトラックでは、男子5000m競走予選が行われます。
- ② 予選は4組行われ、各組4着までと、5着以下、上位記録4名が決勝に進出します。
- ③ 予選第1組の出場者は、プログラム記載のうち、上から5番目、12番目、18番目を除く16名で行われます。
- ④ それではスタートです（スタートにご注目を！）

〔注〕 プログラム記載順の番号を、長距離走では概念がない「レーン」と言ったり、別の意味（リレーのオーダー）でも使っている「オーダー」「オーダーナンバー」とは言わないこと。「上から○番目」「下から△番目」といった言い方にする。

3 不正スタート・スタートのやり直し

- (1) スタート時にリコーラーがピストルを鳴らした時や競技者に注意が与えられた時、機器の不具合が生じてスタートのやり直しをする際に、競技場内の観衆や関係者に「今、何が起こったのか」を正確かつ迅速に説明することが求められている。
- (2) より具体的な状況説明を行なう為に、事前にスタートチーム（出発係を含む）とアナウンサーで打合せを行い、対象となる事象が発生した際には無線等で状況説明を受け、出発係が選手に示すカードとともに場内にアナウンスする。
- (3) 出発係からアナウンサーへの連絡内容、アナウンサーでのコメント内容についてパターン化し、符号表的なカードを双方で持つことで、出発係からの簡潔な連絡、アナウンス・コメントの統一が可能となり、場内へ効果的な説明ができる。

<コメント例>

赤黒	「○レーン」が不正スタートと判定されました。
グリーン	ただいまのは、不正スタートではありません。
	①機械の不調で、スタートをやり直します。
	②スターターの声が選手に聞こえなかったので、スタートをやり直します。スターターが台に上がったなら、お静かに願います。
	③スタートの合図の前にきちんと静止しなかったので、スタートをやり直します。
④スタートの態勢に入るのが遅かったので、スタートをやり直します。	
黄黒 (混成)	「○レーン」が1回目の不正スタートです。このあとの不正スタートは、全て失格となります。

〔注〕 度重なるスタートのやり直しの際には、コメントの内容を簡素化する等の工夫を行う。

4 途中経過・描写等

- (1) レースの状況により、「先頭は○番（またはユニフォームの色、セパレートレーンの競技であればレーンナンバー等）、○○大学の○○君、続いて○○大学の○○君、3番目には○○大学の○○君」のように説明する。
- (2) 「先頭は○○君、続いて△△君、□□君と続きます」と言ってしまうがちだが（重複表現）、「続いて△△君、□□君」や「先頭は○○君、その後ろに△△君、□□君と続きます」のように表現を工夫する。
- (3) 予選等において、最後のホームストレートで接戦になった場合には、「この予選は3着までと4着以下の上位2名が決勝に進みます」等の入選条件をアナウンスしてもよい。
- (4) 接戦の時は「絶叫調」にならないよう、特に注意する。

5 途中時間

- (1) 途中計時は計時員の任務であるが、極力早く知らせるという観点からアナウンサーが途中計時を行い、迅速に発表している。
- (2) 途中計時の目標として、計時地点のフィールド内にラップ用旗を立ててもらおう。
- (3) 途中時間はあくまで参考なので、秒未満は発表しない。また、秒単位へ繰り上げて発表する。例)「5分23秒14」→「5分24秒」
- (4) フィニッシュタイマーやスクリーンなど場内の時計が使用される場合は、場内の時計を優先する(場内の時計が作動しないこともあるので、手許の時計はバックアップとして必ず使用する)。
- (5) 誤読や周回の誤りを防止するため、必ずプログラムやラップタイム用紙に計時距離、周回数、時間等を逐次記入する。
- (6) 計時方法
 - ① 800m、1500m …………… 周回ごと
 - ② 3000mSC …………… 1000mごと(周回ごとを入れてもよい)
 - ③ 3000m、5000m、10000m …………… 1000mごと(余裕があれば周回ごと)
 - ④ 20000m、5000mW、10000mW …… 1000mごと
- (7) 選手、観衆とも途中時間のアナウンスを参考にしているので、計時地点通過直後に迅速かつ簡潔明瞭にアナウンスすることが最大のポイント。そのため、計時地点を通過する前に先頭走者のナンバー及び氏名をアナウンスしておき、通過後は時間のみを簡潔にアナウンスする(通過後10m以内を目途にラップタイムのアナウンスを完了する)。日本記録の際の途中時間や以前に出した記録等と比較する場合も、通過前にアナウンスする。
- (8) 周回ごとのラップタイムや、1000mごとの通過時間からおおよそのフィニッシュタイムを予想するために、計算をすばやく行う工夫(ラップタイム換算表の準備、手許で周回ごと・1000mごとの時間を計算するワークシートの準備等)も必要となる。

【例12 途中時間アナウンス例1】

- ① (通過前) 5000m競走決勝は、先頭が間もなく2000mを通過します。
- ② Hondaの設楽君を先頭に、2000mは、5分、
- ③ (通過直後) 26秒、5分26秒。

〔注〕 通過後に「2000mの通過、先頭は設楽悠太君、Hondaで、5分26秒でした」等と長々とアナウンスしない。

【例13 途中時間のアナウンス例2】

- ① (通過前) 5000m競走決勝は、設楽君を先頭に、間もなく2000m。
- ② ○○君の日本記録の時は5分22秒。本日は、5分、
- ③ (通過直後) 26秒、5分26秒の通過です。
- ④ 日本記録に迫るハイペースでの展開です。

【例14 タイミングを意識した途中時間のアナウンス例】

- ① (直走路の中間を過ぎたら) 5000m競走決勝は、先頭が間もなく2000mを通過
- ② (10m程度手前で) 2000mは 5分
- ③ (通過直後、間髪を入れずに) 26秒、5分26秒。この1000mは2分47秒。

〔注〕 選手にとってもラップタイムは通過直後に聞きたい情報であり、通過前に距離や描写をコメントしておき、通過直後に「時間」を簡潔にアナウンスする。

【例15 途中時間からフィニッシュタイムを予想するアナウンス例】

- ① (通過前) 10000m競走決勝は、旭化成の大六野君を先頭に間もなく4000m。
- ② 先頭の1000mごとの通過時間は 2分49秒、2分46秒、2分51秒と来ています。
- ③ 4000mは 11分…… (通過直後) 13秒、11分13秒の通過です。
- ④ この1000mは 2分47秒。27分台が狙えるペースになりました。

6 フィニッシュ

- (1) 最近では、フィニッシュライン付近のフィールド内にフィニッシュタイマーが置かれることが多いので、1着の記録速報の発表に十分活用したい。
- (2) フィニッシュタイマーの最初の表示は、1着に入った選手の身体の一部(必ずしもトルソーではない)が光電管を遮ることによって測る参考記録であり、正式記録の「速報」ではない。従って「速報は〇秒〇〇」とは言わず、「フィニッシュタイマーは〇秒〇〇で止まっています」等とアナウンスする。一度消えてから、再びレーンナンバー、ナンバー、記録が表示されたものが、正式記録の「速報」であり、その際には「正式記録は〇秒〇〇」「フィニッシュタイマーに1着の正式記録が表示されました」等とアナウンスする。
- (3) 独走でフィニッシュした場合は「1着の〇〇君の記録はどうでしょうか」、数人で競り合った場合には「4レーンは〇〇君、3レーンは〇〇君、最後に追い込んできたのは6レーン〇〇君でした。フィニッシュタイマーにご注目を！」等と観衆の注意を喚起してもよい。
- (4) 200mまでの種目は、風向・風力にも注意する。速報発表時の風の情報はアナウンサー自身が風力速報表示器を目視して確認する。
- (5) 黄旗が上がっていてもフィニッシュタイマーに速報が表示されるが、1着とは関係ないところで黄旗が上げられることも多いので、記録の速報性を重視し、黄旗が上がっていることを断った上でアナウンスする。
- (6) 写真判定中の結果が各順位の判定とともにスクリーンに順次表示される「ライブリザルト」方式の場合は、PC等のモニターを見ながら「写真判定中の速報である」旨のコメントをつけて発表してよい。
- (7) 大規模大会でスクリーンにレースのリプレイ(VTR映像)が映し出される場合には、「リプレイをご覧ください」「リプレイです」等と挿入して観衆の目をスクリーンに向ける。基本的には(写真判定や映像処理の所要時間が関係するが)、「フィニッシュ → フィニッシュタイマーでの1着速報 → 3着までのライブリザルト → (映像)リプレイ → 4着以降のライブリザルト」となる(3着までのライブリザルトとリプレイの順番が逆になることもある)。
- (8) 日本新記録、大会新記録等はプログラムでも確認できるが、それ以外でも、「歴代第〇位」「100mに続いて2冠」「3年連続4回目の優勝」「U20(ジュニア)日本新記録誕生」「中学新記録誕生」等のコメントを速報段階でも紹介できるよう準備しておきたい。

【例16 フィニッシュのアナウンス基本パターン】

- ① フィニッシュタイマーは〇秒〇〇で止まっています。
(観衆の注目をフィニッシュタイマーに促す)
- ② メインスタンド前の風の表示は、〔 追い風/向い風 〕 〇.〇m。
(風力速報表示器に注目を促す)
- ③ スクリーンにはリプレイが出ています。(スクリーンに注目を促す)
4レーンは〇〇君、3レーンは〇〇君、6レーンは〇〇君。
- ④ 間もなく、フィニッシュタイマーに1着の正式記録が表示されます。
(フィニッシュタイマーに注目を促す)
- ⑤ 1着は〇レーン、〇〇君、〔 所属 〕。〇秒〇〇。追い風(向い風) 〇.〇m
でした。

- [注] 1 風力表示板がどこにあるかのコメントを1レース目に行い(「メインスタンド前の表示板で、風の情報にもご注目ください」)、以下のレースでは、単に「追い風(向い風) 〇・〇m」とアナウンスすればよい。
- 2 紹介時にはレーンに「第」をつけるが、メリハリをつける観点から、描写時や結果発表時には「第」をつけなくてもよい。

【例17 新記録誕生時のアナウンス例】

- ① フィニッシュタイマーは22秒88で止まっています。
- ② (表示を待って) 追い風1.8m。
- ③ 従来の日本記録は22秒89。フィニッシュタイマーは日本記録を上回っています。
- ④ (フィニッシュタイマーの表示と同時に)
22秒88。日本新記録の誕生です。福島さん、自身の日本記録を1/100秒更新しました。
- ⑤ スクリーンはリプレイです。福島さん、スタートから飛び出し、追い風に乗って、2着以下に大差をつけてフィニッシュしました。
- ⑥ スタンドの皆さん、日本新記録を樹立した福島さんに、どうぞ大きな拍手を。

【例18 2着以下の速報のアナウンス例】

- ① 女子200m競走決勝は、追い風1.8mの中で行われました。
- ② (表示と同時に) 1着は4レーンの福島さん、22秒88。日本新記録の誕生です。
- ③ そして2着は高校生、5レーンの斎藤さん、23秒46。日本ジュニア新記録をマークしました。
- ④ 3着以下は後ほどお知らせします。

- [注] 文字表記上は「U18」「U20」となったが、現時点では定着していないことから、当面はこれまでの言い方の「ユース」「ジュニア」でよい。

【例19 黄旗が上がっている場合のアナウンス例】

- ① 向い風0.7mの中で行われた、男子110mハードル準決勝第1組。
- ② 1着は4レーン〇〇君。フィニッシュタイマーは15秒19を示しています。
- ③ 黄旗が上がっていますので、正式結果は後ほどお知らせします。

7 成績発表

(1) 一般種目

- ① 競技者本人はもちろん観衆も結果を一刻も早く知りたがっているので、迅速に発表するように心がける。
- ② 他の競技の進行状況をよく確かめ、結果発表のアナウンスを行うタイミングを判断する。
- ③ 「フィニッシュ → 成績発表 → 次の紹介」の順序を原則とする。記録に誤りがないか（特に着順・時間、風力、新記録等）確認した上で発表する。
- ④ 結果（リザルト）はためないで、できるだけ早く発表する。リザルトは、必ずしも競技の実施順に決まるとは限らない。（紙）手許に来たもの、（PC）入力されたものからできるだけ早く発表する。順序が前後する場合はその旨を断ってから発表する。
- ⑤ 結果（リザルト）の記載（表示）様式は、1行目が必ずしも1着ではないので注意する。
- ⑥ プログラムに記入させる場合は聞き手の立場に立って、プログラムの様式に合わせたアナウンスをするよう留意する。
- ⑦ スクリーンを使用する時は、タイミングを合わせてアナウンスする。
- ⑧ 抗議に備え、PC等を使用する場合でも発表時刻をプログラム等に記入する。

【例20 基本パターン】

- ① 先ほど行われました（ただいま行われている／終了いたしました）
〔種目〕、予選第〇組の結果を発表します。
（プログラムを開く観衆もいるので、少し間を置いて）
- ② 1着、〇レーン（または〇番）、〇〇君、〔所属〕。〇秒〇〇。
（以下順に出場者全員発表）
- ③ （200m以下の種目では）〔追い風／向い風〕、〇.〇mでした。

- 〔注〕
- 1 スクリーンを使用しない競技会の場合は、最初にプログラムの記載ページを入れる。
 - 2 時間短縮やメリハリをつける観点から、結果発表時には「第」をつけなくてもよい。
 - 3 結果を発表する際には、種目名（ラウンド・組）に「結果です」「発表します」「申し上げます」「お伝えします」等の結語をつける。

【例21 100mの成績発表例】

- ① ただいま行われています、男子100m競走、予選第1組の結果です。
- ② 予選第1組
1着、3レーン、ケンブリッジ君、ドーム、時間、10秒35。
2着、4レーン、川上君、中央大学、10秒59。
（以下、順に発表）
- ③ 追い風1.4mでした。
- ④ 以下はスクリーンをご覧ください。

- [注] 1 「+」「-」と表記されているが、「プラスの風」「マイナスの風」とは言わない。スクリーンに結果発表される際、風の情報が抜けている場合には、記録・情報処理員に情報の追加表示を依頼する。
- 2 時間に余裕があれば、全員の結果を発表する。余裕がなければ、スクリーンや掲示板等で確認してもらう旨を伝え、下位を省略してもよい。ただし、次ラウンドに進出できる $+\alpha$ の対象となる順位までは極力発表すること。
例) 「予選2組3着+2」の場合は5着
- 3 失格者がいる場合は、わかりやすい表現で理由をアナウンスする。
例) 「レーン侵害」→「他のレーンに入ったので失格となりました」
「ハードリングが正しくなかったので失格となりました」
- 4 通過条件の最終枠に同着・同タイムがいる場合、 $+\alpha$ も変更されることもあるので、注意が必要。記録・情報処理員(番組編成係)から回付される内容をよく確認する。

【例22 100mの成績発表例】

- ① 先ほど行われました男子100m競走、予選最後の第6組の結果をお知らせします。
- ② (少し間を置いて)
1着、7レーン、高橋君、愛知医科大学、時間、10秒47。
2着、8レーン、九鬼君、NTN、10秒49。
(以下、順に発表)
- ③ 向い風1.3mでした。
- ④ なお、この男子100m競走予選は、各組2着までと、3着以下の上位4名が決勝に進みます。その4名は、
2組3着、我孫子君、山形市役所、10秒52。
4組3着、大嶋君、日本大学、10秒54。
6組3着、多田君、関西学院大学、10秒50。
6組4着、竹下君、住友電工、10秒54。
以上、10秒54までの4名です。
(または 対象者の「組・着順・名前・所属」を言い、それぞれの時間は言わず、最後に「以上、10秒54までの4名です」でもよい)

- [注] 1 プラス α の選手の発表は、当該種目予選(準決勝)最終組の結果発表後に行う(記録や番組編成からの成績の流れ方により、多少遅れる場合もある)。
- 2 発表の終わったりザルトを基に、プラスの通過者を整理しておくもよいが、発表は番組編成(記録情報)の決定を待ってから行わなければならない。
- 3 プラス α の通過者が複数いる場合、番組編成(記録情報)からは記録順で送られてくることが多い。記録のよい順に発表してもよいが、予選の組数が多い場合は、「12秒20までが通過しています」等と断った上でプログラム記載順に発表するとわかりやすい。
- 4 スクリーンに表示する場合は、表示順に合わせてアナウンスする。
- 5 同タイム着差あり(1/100秒単位では同タイムだが、1/1000秒単位では差がある)の場合には、スクリーンに1/1000秒単位まで表示してもらい、その内容を説明する。

【例23 上位ラウンドにタイムで進出する選手の発表例1】

- ① 先ほど行われました、女子200m競走、予選の結果、タイムで決勝に進む2名をお伝えします。
- ② 2組3着、今井さん、飯田病院、 24秒22。
1組3着、和田さん、ミズノ、 24秒37。
- ③ 以上、24秒37までの2名です。

【例24 上位ラウンドにタイムで進出する選手の発表例2】

- ① 先ほど行われました、男子1500m競走、予選の結果、決勝進出プラス3の選手をお知らせします。
- ② (少し間をおいて)
1組4着、大手君、日本体育大学。
1組5着、服部君、東洋大学。
2組4着、山崎君、日本大学。
- ③ 以上、3分51秒15までの3名がプラスで決勝に進出します。

〔注〕 競技会の性質に応じて、陸上競技に詳しい関係者が多い大会（IC等）では「決勝進出のプラス α 名」と、一般の観衆が多い大会（中学生の大会や国体、日本選手権等）では「タイムで決勝に進む α 名」等と表現を変えてもよい。どちらの表現を理解しやすい関係者が多いかを考える。

【例25 同成績多数で $+\alpha$ が減少する場合のアナウンス例（8レーン競技場）】

- ① 男子100m競走の予選は全部で11組あり、各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝進出の条件で行われましたが、8組に2着が同着で2名いましたので、プラスで準決勝に進む選手は1名となります。
- ② 予選1組3着〇〇番〇〇君〇〇高校、10秒78。
- ③ 〇〇高校の〇〇君が記録によるプラス1として準決勝に進出します。

【例26 $+\alpha$ 最終枠に同タイムがいる場合のアナウンス例（9レーン競技場）】

- ① 男子100m競走の予選は各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝進出の条件で行われましたが、タイムで進む最終枠に1/1000秒まで同タイムの競技者が2名いました。
- ② この競技場は9レーンありますので、タイムで進む2名を3名とし（プラス2をプラス3とし）、準決勝進出は各組2着までと3着以下の上位記録3名の合わせて9名となります。
- ③ タイムで決勝に進む3名は
1組3着の〇〇君〔所属〕。
3組3着の〇〇君〔所属〕。
5組3着の〇〇君〔所属〕。（必要に応じて、名前と所属を反復）
- ④ 以上10秒79までの3名です。

【例27 同成績多数で抽選を行う場合の呼び出し例】

- ① 男子100m競走の予選は各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝に進みます。
- ② 準決勝進出プラス2に該当する選手が同タイムで4名いましたので、抽選を行います。
- ③ 予選で10秒77をマークした
1組3着の〇〇君〔所属〕。
3組3着の〇〇君〔所属〕。
5組3着の〇〇君〔所属〕。
1 1組3着の〇〇君〔所属〕。 (必要に応じて、名前と所属を反復)
- ④ 至急、本部にお集まりください。

(2) リレー種目

- ① メンバーを紹介する場合は、プログラム記載順ではなく提出されたオーダー順に発表する。
- ② 失格となったチームについてはリザルトに記載された理由を説明する。

【例28 400mリレー予選の成績発表例】

- ① 先ほど終了した、男子400mリレー、予選第1組の結果です。
- ② (少し間を置いて)
1着、2レーン、中央大学、 時間、39秒48。
2着、5レーン、関西大学、 39秒88。
- ③ 3着以下はスクリーンをご覧ください。
- ④ なお1レーンの国際武道大学は、第1走者から第2走者へのバトンパスでオーバーゾーンがあったため、失格となりました。

- [注] 1 選手のナンバーを言わずにレーンナンバーを言って、観衆が確認する時間をとるとよい。
- 2 失格チームがある場合は、リザルトに記載されている失格の理由を確認し、簡潔にわかりやすい表現でアナウンスする。
- 例) 「オーバーゾーンのため …」
「バトンパスが正しく行われなかったもので …」

【例29 1600mリレー決勝の成績発表例】

- ① 日本高校新記録が誕生した女子1600mリレー、決勝の結果を申し上げます。
- ② (少し間を置いて) 女子1600mリレー決勝の結果。
1着、6レーン、東大阪大敬愛・大阪。
戸谷さん、川田さん、戸谷さん、佐々木さん。
時間、3分37秒67。これは日本高校新記録です
2着、7レーン、至学館・愛知、3分42秒81。
3着、8レーン、相洋・神奈川、3分44秒34。 (以下、順に発表)
- ③ 以上でした。

- [注] 結果発表時にオーダーをアナウンスする場合は、1位または新記録をマークしたチームにとどめ、全チームは行わない。

8 ライブリザルト表示を活用したフィニッシュと成績発表

- (1) 最近では、写真判定中の結果を直接スクリーンに順次表示する「ライブリザルト」方式を採用する競技会が多くなってきた。臨場感あふれる演出として効果的なので、ぜひ活用したい。
- (2) ライブリザルトの実施にあたっては、写真判定員、記録・情報処理員、電光掲示（大型映像）係などとの高度な連携が欠かせない。
- (3) 選手紹介、レースの描写、ライブリザルト、結果発表を一連の流れで（パターン化して）行いたい。写真判定やVTRの編集時間にもよるが、「見所解説→選手紹介→スタート→実況→フィニッシュ→フィニッシュタイマーの1着の速報→3着までのライブリザルト→（映像）リプレイ→4着以下のライブリザルト→結果の確定」とパッケージ化して進めるのが理想的（3着までのライブリザルトとリプレイの順番が逆になることもある）。
- (4) 新記録誕生の場合などを除いて、ライブリザルトと正式結果の発表で同じ内容を何度もアナウンスすることを避け、省略すべきことは省略する。

【例30 ライブリザルト表示を活用した予選アナウンスの例】

- ① フィニッシュタイマーは〇秒〇〇。
- ② スクリーンには写真判定中の速報が表示されています。
1着は（〇レーン）、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
2着は（〇レーン）、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
3着は（〇レーン）、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
以下はどうぞご覧ください。
- ③ （スクリーンの表示が「確定」または「OFFICIAL」に変わったら）
追い風1.4mで行われた予選1組、結果が確定しました。

【例31 ライブリザルト表示を活用した決勝アナウンスの例】

- ① フィニッシュタイマーは、〇秒〇〇。
- ② ただ今のレースは、〔追い風/向い風〕〇.〇mで行われました。
- ③ スクリーンにはリプレイが出ています。
4レーンは〇〇君、3レーンは〇〇君、最後に追い込んできたのは6レーンの〇〇君でした。
- ④ 続いて写真判定中の速報が表示されています
1着は〇レーン、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
2着は〇レーン、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
3着は〇レーン、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
(以下最後まで)
- ⑤ （スクリーンの表示が「確定」または「OFFICIAL」に変わったら）
結果が確定しました。〇〇君が見事に優勝です。おめでとうございます。

【注】 1 アナウンスでは「ライブリザルト」とは言わずに、「写真判定中の速報」といった表現を使う。

2 表示に合わせてスピーディーにアナウンスする。短距離走であればフィニッ

シュして40～60秒で判定が行われ、結果が確定する。

- 3 ライブリザルトを行う際にはスクリーンに表示される情報（文字・映像）を用いて発表するので、「アナウンスのコメントは少なくする」という観点が必要。表示に合わせて、全てをコメントする必要はない。
- 4 予選、準決勝等の場合や時間に余裕がない時は、「以下はスクリーンをご覧ください」として、下位のアナウンスを省略することも可能。また、長距離種目で出場者が多い場合、決勝であっても下位を省略することもあるが、少なくとも入賞者まではアナウンスする。どのように表現するか、何着まで発表するかはその大会のアナウンサー全員で統一する。
- 5 ライブリザルトが確定（Official）に変わる前（正式結果の表示前）に別の情報をスクリーンに表示した場合は、改めて確定した（正式）結果を表示してもらおう。その際、ライブリザルトで速報としてすでにアナウンスした内容は省略してよい。

例）「スクリーンには確定した〔種目・ラウンド・組数〕の結果が表示されています。どうぞご覧ください」
- 6 黄旗が上がった場合はライブリザルトの発表は行わない。黄旗が挙げた旨を伝え、フィニッシュタイマーでの1着の速報のみをアナウンスする。この場合は、電光掲示（大型映像）係にライブリザルト表示を行わないように連絡する。

例）「ただ今のレース、1着は〇〇さん 〇秒〇〇。
黄旗が挙がっていますので、正式結果はしばらくお待ちください」

■フィールド競技

1 全般的な留意事項

- (1) トラック競技の進行を考慮しつつ、できる限り一跳一投ごとにアナウンスを行うように努める。
- (2) 一跳一投のアナウンスを行うために、種目ごとに担当を決め、競技を追い、いつでもコメント（描写）ができる体制をとる。
- (3) 無線やコンピューター等を活用し、フィールド審判員等と連携する。
- (4) 選手が助走、投てきの準備に入ったらコメントを控える等、アナウンスのタイミングにも十分に注意する。

2 紹介

- (1) ピットでの練習終了後、概ね競技開始5分前に紹介を行う。トラック競技や表彰との兼ね合いで、練習中に紹介してもよい。
- (2) 選手を並べて紹介する場合（One by One）は、整列方法や名前を呼ばれた時の動作、紹介後の移動方法等について、あらかじめフィールド審判員と打ち合わせておく。
- (3) 競技注意事項を参照し、
 - ・予選の試技順はプログラム記載の左から右か、上から下かを確認する。
 - ・予選通過標準記録等が設けられている場合には、あわせて紹介する。
 - ・高さを競う種目では、最初のバーの高さとその後のバーの上げ方を説明する。

【例 32 距離を競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、○時から、[種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② この種目の [大会] 記録は○m○○、予選通過標準記録は○m○○です。
- ③ 出場選手を紹介します。○○君、[所属]。
(以下順に出場選手全員を紹介)
- ④ 以上○名の出場です。

【例 33 高さを競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、○時から、[種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② この種目の [大会] 記録は○m○○です。
- ③ 出場選手を紹介します。○○君、[所属]。
(以下順に出場選手すべてを紹介)
- ④ 以上○名の出場です。
- ⑤ なお、最初のバーの高さは○m○○で、その後、○cm ずつ上げられます。

- [注] 1 スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。
- 2 以前はナンバーを紹介していたが、名前をフルネームで紹介するケースが増えている（ナンバーを紹介すること自体は誤りではない）。

3 予選で出場人数が多い場合には、選手紹介を省略してもよい。

例) 「男子砲丸投、予選B組は、プログラム通り25名全員の出場です」
「女子走幅跳予選は、プログラム記載の上から3番目、8番目、16番目を除いた20名が出場します」

【例34 棒高跳の紹介例】

- ① 10時40分からバックスタンド前では、少年A男子棒高跳決勝が行われます。
- ② この種目の日本記録は2005年に澤野君がマークした5m83、U20日本記録（日本ジュニア記録）も澤野君で、1999年日本大学時代の5m50。大会記録は61回大会で静岡の笹瀬君が作りました5m31です。
- ③ 出場者はスクリーンにも表示されます。
西 哲生君、和歌山。
江島 雅紀君、神奈川。
高木 紘哉君、宮崎。
(以下最後まで)
- ④ 以上24名です。
- ⑤ 最初のバーの高さは4m40、その後は10cmずつ上がります。

- 【注】 1 必要に応じて、日本記録や予選通過標準記録等を示すライン、記録表示盤の位置や表示方法などについて説明する。
- 2 競技開始の「旗上げ」と「アナウンス」の同期を取る場合には、フィールド審判員と連携し、簡潔にアナウンスする。

3 途中経過・描写等

(1) トップ8

- ① トップ8からは試技順が変更となり、成績下位の競技者から試技を行うので、迅速かつ正確な情報収集に努める。
- ② コンピューターシステムが使用されている競技会で、一跳一投の記録がピットで入力されている場合は、PC等のモニター上でトップ8が確定した段階で発表してよい。また、スクリーンにも表示させるとよい。
- ③ コンピューターシステムが使用されていない（またはピットで入力が行われていない競技会）場合は、事前にフィールド審判員と打ち合わせを行い、トップ8が決まった段階でアナウンスに必要な情報を伝えてもらうように要請しておくか、3回目の試技の後半になったらアナウンサー（補助員）が直接ピットに行き、トップ8の情報を収集する。その際、ワイヤレスマイクを用いてピット脇でアナウンスすれば、より迅速に発表ができる。
- ④ コンピューターシステムが使用されていない（またはピットで入力が行われていない競技会）場合やPC等のモニターがない場合には、競技の状況を描写するためにアナウンサー（補助員）が一跳一投の結果を手許のプログラムに記録する。
- ⑤ アナウンサーの人員不足で一跳一投が追えない場合や記録表示板がなく記録がわからない場合でも、トップ8の競技者名は必ず紹介する。
- ⑥ 走幅跳、三段跳では記録順位表示板（トップ8表示板）を、投てき競技ではナンバー（または試技順）が書かれたペグ（表示板）を使用することが多いので、その情報も活用する。

【例 35 トップ 8 紹介基本パターン】

- ① ○時から、〔 場所 〕で行われている、〔 種目 〕決勝は、3 回の試技が終了し、トップ 8 が決まりました。
- ② トップ 8 の選手を（3 回目までの記録とあわせて）4 回以降の投てき（跳躍）順に紹介します。
○○君、〔 所属 〕、○m○○。
○○君、〔 所属 〕、○m○○。
○○君、〔 所属 〕、○m○○。
（以下順に紹介）
- ③ 以上の 8 名で、〔 種目 〕はこれから 4 回目に入ります。

【例 36 やり投のトップ 8 紹介例】

- ① Aゾーンで行われている女子やり投は、3 回の投てきが終了し、トップ 8 がスクリーンに表示されました。4 回目以降の投てき順に、これまでの記録と合わせて紹介します。
- ② 瀧川さん、東大阪大学、（3 回まで） 53m22。
齋藤さん、国士館大学、 53m36。
助永さん、オークワ、 53m39。
海老原さん、スズキ浜松AC、 54m66。
久世さん、筑波大学、 54m81。
宮下さん、大体大T.C、 56m25。
佐藤さん、東大阪市陸協、 56m44。
3 回が終わり、現在トップに立っているのは、北口さん、日本大学、56m95。
- ③ これから 4 回目の投てきに入ります。
最初の投てきは東大阪大学の瀧川さんです。

- 〔注〕 1 コンピューターシステムを使用する大会では、フィールド競技の途中経過をライブリザルトとしてスクリーンに表示することもできるので、スクリーンの表示を活用しながらアナウンスするとよい。
- 2 最低でもトップ 8 の競技者名のみは紹介する。
例) 「男子走幅跳決勝、トップ 8 は、○○大学の○○君、○○大学の○○君 …、以上（○m○○までを跳んだ）8 名です」

(2) 途中経過の描写

- ① 競技者が助走や投てきの動作に入るまでに（砂場の整備中や投てきサークルに向かって歩いているタイミング等で）、それまでの記録や順位をアナウンスする。走幅跳や三段跳で次の試技者が助走路内に待機している場合には、準備完了を示す白旗が振り下ろされるタイミングに合わせるとよい。
- ② 決勝の 4 回目以降はできるだけ一跳一投ごとにアナウンスする（時間に余裕がある場合は 1 回目から一跳一投の様子をアナウンスする）。
- ③ 競技者によって試技に入るタイミングが違うので、練習や前半の試技でその癖やパターンを観察しておくとうい。跳躍種目では制限時間をギリギリまで使い、投てき種目（特に砲丸投）はサークルに入るとすぐに投てきを行う傾向がある。

- ④ 競技者の集中を妨げないように、タイミングや言葉には十分に注意し、簡潔に表現する。試技時間のルールを理解しておく（競技規則第 180 条 18）。
- ⑤ 距離を競う種目と高さを競う種目では、アナウンスのポイントが若干異なる。（一般的に、観衆にとって、距離を競う種目は「アナウンスがないと途中経過がわからない」が、高さを競う種目は「アナウンスがなくても途中経過はわかる」）
- ⑥ トラック競技が行われている時は、トラック競技担当のアナウンサーと連携をとりながらフィールド競技の描写を行う。
- ⑦ 距離を競う種目で「6 回目の残り 2～3 名、まだ優勝の行方がわからない時」や高さを競う種目で「大会記録に挑戦」といった場合には、トラック競技のスタートを遅らせてフィールド競技を優先することもあるので、出発係等と十分な連携をとる。
- ⑧ よりフィールド競技を盛り上げる観点からは、上位 3 人（トップ 3）が試技を行う際は、トラック競技よりもフィールド競技を優先させることが望ましい。そういった場面での優先順位については、事前に進行担当総務員や出発係等の関係部署とよく打ち合わせておく。
- ⑨ ワイヤレスマイクを活用してピットでアナウンスするとより臨場感のあるアナウンスが可能になるが、他の競技の進行との関係があるので、無線等でアナウンス席と連絡の取れるようにしておくこと。
- ⑩ 観衆の興味をより引き出すために、今シーズンの成績や過去の成績等（「日本記録保持者」「昨年 of 日本選手権獲得者」「〇連覇中」等のコメント）を紹介する。
- ⑪ 高さを競う種目でバーを落とした際には、「失敗しました」「諦めました」等とマイナスイメージのコメントは加えない。むしろ「大変惜しい跳躍でした」「まだチャンスがあります」等の前向きな表現を用いる。
- ⑫ 高さを競う種目でのジャンプオフ（第 1 位決定戦）の考え方、バーの上げ下げ、記録の取り扱い等のルールについても理解しておく（競技規則第 181 条 9）。

【例 37 距離を競う種目の描写基本パターン】

■ 競技開始

- ① [場所] では [種目] 決勝が競技開始です。
- ② (紹介) 最初の投てき (跳躍) は、〇〇君、[所属]。
(試技～計測～記録表示)
(結果) 〇〇君の 1 回目は〇m〇〇。
(紹介) 続いて、〇〇君、[所属]。
以降、(試技) (結果) の繰り返し。

■ 1 回目終了時

- ① [種目] 決勝は 2 回目の跳躍 (投てき) に入ります。
- ② 1 回目では [所属] の〇〇君が〇m〇〇をマークして、現在トップ。
次は [所属] の〇〇君が〇m〇〇、
[所属] の〇〇君が〇m〇〇と続いています。

■ 2 回目終了時

- ① [種目] 決勝は 3 回目の跳躍 (投てき) に入ります。
- ② 2 回目が終了し、現在のトップは〇m〇〇をマークしている [所属] の〇〇君。

③ これを〔所属〕の〇〇君が〇m〇〇、〔所属〕の〇〇君が〇m〇〇で
追う展開です。

④ なお、現在の8位の記録は〇m〇〇です。

■ 3回目終了時

(トップ8発表)

■ 4回目以降

① (紹介) 次の跳躍(投てき)は、〔所属〕の〇〇君。これまでに〇m〇〇
をマークして、現在、第〇位。(トップとは〇cmの差)
(【すぐ上の順位】△位との差は〇cm)

② (試技～計測～記録表示)

③ (結果) 〇〇君の〇回目は〇m〇〇。
(記録を伸ばして、〇位。トップとの差は〇cm)
(記録を伸ばして、順位をひとつ上げました)

<*記録が伸びなかった場合にはコメントしない>

【例 38 高さを競う種目の描写基本パターン】

■ 競技開始

① 〔場所〕では〔種目〕決勝が競技開始です。

② バーの高さは〇m〇〇です。最初の跳躍は

(紹介) 〇〇君、〔所属〕。

(試技)

(結果) 〇〇君、〇m〇〇を1回目に成功。<*失敗した場合にはコメントしない>

(紹介) 続いて、〇〇君、〔所属〕。

以降、(試技)(結果)の繰り返し。

■ 2回目

① 〔種目〕決勝は〇m〇〇の2回目に入ります。

② 1回目では〇〇君〔所属〕、〇〇君〔所属〕…〇名が成功しています。

③ (紹介)(試技)(結果)繰り返し。

■ 次第にバーが上がって

① 〔種目〕決勝は〇m〇〇にバーが上がります。

② この高さには〇〇君〔所属〕、〇〇君〔所属〕…〇名が挑戦します。

③ (紹介)(試技)(結果)繰り返し。

【例 39 高さを競う種目でパスがいる場合のアナウンス例】

① 男子走高跳はバーの高さが2m00に上がります。

② この高さには6名が挑戦し、2名がパスします。

【例 40 棒高跳の記録挑戦時のアナウンス例】

① 男子棒高跳決勝は、バーの高さが5m43に上がり、この高さを越えると日本
高校新記録の誕生となります。

② 荏田高校の江島君が挑戦します。

【例 41 新記録誕生時のアナウンス例】

- ① (結果が出た直後に) 白旗があがりました。
- ② 荏田高校の江島君、5m43 を見事にクリア。日本高校新記録の誕生です。

【例 42 他競技との関係で描写の時間が確保できない場合のアナウンス例】

- ① トラックでは間もなく、少年共通女子 1500m 競走決勝が行われますが、正面スタンド前で行われている成年女子三段跳決勝は、このあと長野の宮坂さん、京都のヘンプヒルさん、石川の豊野さん(2～3名程度を紹介)と続きます。
- ② それではトラック競技です。

- [注] 1 描写の時間が十分確保できない場合には、このような言い方で観衆の注意を喚起し、時間が確保できるところで改めて描写する方法もある。
- 2 選手が試技開始の態勢に入り、アナウンスを入れる時間がない場合には、上位選手や注目選手の試技の場合に限り、「三段跳です」「どうぞ三段跳を」等の一言を挿入してもよい。

【例 43 トラック競技と重なった場合のアナウンス例】

- ① トラックでは少年A女子 400mH 準決勝のスタート時刻ですが、フィールド競技、少年A男子棒高跳決勝は、神奈川の江島君がこれから 5m51 の日本高校新記録に挑戦します。
- ② 江島君の跳躍の後、400mH がスタートします。

- [注] 1 大会記録等の好記録が期待できる選手の試技のタイミングとトラック競技のスタートが重なった場合には、フィールド競技を優先させ、トラック競技のスタートを遅らせてよい。
- 2 無線等で出発係との連絡がとれない場合には、臨機応変にこのようなアナウンスを加える。大規模大会で進行担当総務員がいる場合は、その指示に従うこと。

4 競技終了

- (1) 最後の試技終了後、競技が終了したことを告げるとともに、優勝者を紹介し、健闘を称える内容の締めくくりのアナウンスを行う。
- (2) 状況に応じて「日本新記録(大会新記録)をマークしての優勝」「2年ぶり4回目の優勝」等のコメントを挿入する。2等(位)以下の選手で、日本新記録や大会新記録等の好記録をマークしている場合も、あわせてアナウンスする。
- (3) 最後の試技が失敗(無効)で競技が終了した場合には、「失敗した」等のマイナスイメージの表現を避けるよう心がける。

【例44 やり投の競技終了アナウンス例】

- ① ご覧の通り、スズキ浜松ACの新井君が、5回目に84m54の大会新記録をマークして3連覇を達成しました。
- ② 新井君、おめでとうございます。
- ③ 以上で、男子やり投げ決勝、競技終了です。

〔注〕 競技終了の「旗下ろし」と「アナウンス」の同期を取る場合には、フィールド審判員と連携し、簡潔にアナウンスする。

【例45 最終競技者がファウルの場合の競技終了アナウンス例】

- ① 正面スタンド前で行われておりました女子走幅跳決勝。すでに優勝を決めていた、VOLVERの甲斐さんは、最後の跳躍は残念ながら赤旗でした。
- ② 甲斐さんは、5回目に6m36をマークして初優勝を決め、リオデジャネイロ・オリンピック出場内定となりました。
- ③ 優勝した甲斐さんには花束が贈られます。甲斐さんおめでとうございます。
- ④ 以上で女子走幅跳、競技終了です。

〔注〕 競技終了直後に花束等が贈呈される場合には、現場（フィールド審判員、報道係、表彰係等）と渡すタイミングや渡す場所などについて連絡を密にして行うことが必要になる。花束等のプレゼンターを紹介することもある。

【例46 走高跳の競技終了アナウンス例】

- ① Bゾーンで雨の中行われておりました、女子走高跳決勝。ただ一人1m81に挑戦した、北海道ハイテクACの京谷さん、3回目の跳躍も残念ながらバーを落としてしまいました。自己ベスト更新の1m78をクリアして初優勝を決めました。
- ② 京谷さん、おめでとうございます。
- ③ 以上で女子走高跳、競技終了です。

5 成績発表

(1) 予選

- ① 予選通過者の発表は、プログラム記載順にアナウンスした方が聞きやすいが、記録情報から回付されるリザルト用紙やスクリーンに表示されるリザルトは、記録順になっていることが多い。そのため、プログラムのどの辺りに記載があるか示しながらアナウンスするとよい。
- ② 予選通過標準記録が設けられ、それを越える選手が12名以上の場合は全員が決勝に進出できる。12名に足りない場合は予選成績から追加補充されるので、記録情報や番組編成から回付される情報をもとに対象選手を紹介し、その理由も説明する。
- ③ 予選が複数組で同時に行われる跳躍競技等では、全組が終わるのを待って通過者を確認した上で発表する。予選が行われる時間が異なる場合には、先に終了した組から通過者を発表し、最終組終了時に改めて決勝進出者全員を紹介する。

【例47 距離を競う種目の予選の成績発表基本パターン】

- ① [場所] で行われていました、[種目]、予選の結果、決勝に進出する(進む)選手を申し上げます。
- ② 予選通過標準記録〇m〇を超えた〇名が決勝に進出します(進みます)。
- ③ 予選〇組では、(記録順に、)
〇〇君、[所属]、〇m〇〇。
〇〇君、[所属]、〇m〇〇。(以下順に)

- ④ 予選〇組では、(記録順に、)
 〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇。
 〇〇君、〔所属〕、〇m〇〇。(以下順に)
- ⑤ 以上〇名が、〇時から行われる決勝に進出します(進みます)。

[注] 跳躍競技の場合、予選通過者は風力に関係なく決まるので、風の情報は省略してよい。

【例 48 走幅跳予選の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、女子走幅跳予選の結果、決勝に進む選手が決まりました。
- ② 予選通過標準記録の5m80を超えたのは、予選1組では10名、2組では9名、合わせて19名です。
- ③ まず予選1組では、プログラム記載順に、
 上から4番目、高良さん、園田学園・兵庫、5m96。
 3番目、山本さん、鳴門・徳島、5m89。
 7番目、高橋さん、佐沼・宮城、5m88。
 (以下順に)
 以上10名が決勝に進みます。以下の記録はどうぞご覧ください。
- ④ (画面表示が変わったら) 続いて、スクリーンは予選2組の結果です。
- ⑤ 予選2組では…(以下略)。

- [注] 1 スクリーンを使用しない競技会の場合は、プログラムの記載ページを入れる。
 2 追加補充が生じた時は、その概要を先に説明する。

【例 49 走高跳予選の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、男子走高跳予選の結果です。
- ② 予選通過標準記録 2m03をクリアしたのは、予選1組で5名、2組で6名、合わせて11名でした。
- ③ 決勝は12名で行うことになっていますが、その人数に足りませんので、予選通過標準記録のひとつ下の高さ、2m00(2メートル・れい)を1回目にクリアした選手の中で、無効試技数が少ない3名を加えた14名が決勝進出となります。
- ④ 予選1組では、プログラム記載の
 7番目、高橋君、盛岡南。
 10番目、羽田君、新潟南。
 :
 31番目、岩本君、大阪桐蔭。
 この5名が予選通過標準記録2m03をクリアしています。これに
 12番目、高橋君、東京学館船橋。2m00(2メートル・れい)。
 を加えた6名が決勝に進みます。
- ⑤ (画面表示が変わったら) 続いて、予選2組の結果です。
 予選2組では…(以下略)。

(2) 決 勝

- ① 上位の成績順に発表する。スクリーンに結果表示をしない場合は、プログラムのどの辺りに記載されているか（上から○番目等）を示しながらアナウンスをする
とよい。
- ② 2等以下は項目名「記録」等を省略し、短縮化を図る。
- ③ 時間に余裕があれば、何回目の試技で記録されたのかもコメントする。

【例 50 距離を競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました〔種目〕、決勝の結果をお知らせします。（少し間を置いて）
- ③ 1等、（一番下）、 ○○君、〔所属〕、記録 ○m○○。
2等、（上から○番）、 ○○君、〔所属〕、 ○m○○。
3等、（真ん中あたり）、 ○○君、〔所属〕、 ○m○○。（以下順に）
- ④ 以上でした。

- 〔注〕 1 距離を競う種目の順位決定のルール（競技規則第 180 条 22・同成績 等）をよく理解しておく。同記録の場合、対象となる競技者の 2 番目の記録で、それでも決まらない場合は 3 番目の記録で順位を決める。
- 2 何回目に投げた（跳んだ）記録かの「○回目」は省略してよい。
- 3 スクリーンを使用しない競技会では、風の情報をつけ加えてもよい。

【例 51 高さを競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました〔種目〕、決勝の結果をお知らせします。（少し間を置いて）
- ③ 1等、（一番下）、 ○○君、〔所属〕、記録○m○○。
これは〔日本／大会〕新記録です。
2等、（上から○番目）、○○君、〔所属〕、 ○m○○。
3等、（真ん中あたり）、○○君、〔所属〕、 ○m○○。（以下順に）
- ④ 以上でした。

- 〔注〕 高さを競う種目の順位決定のルール（競技規則第 181 条 8・順位 等）をよく理解しておく。
- 同記録者が出た場合、上位になるのは
- i) 同記録になった高さでの試技数のもっとも少なかった競技者
それでも決められなかったときは
- ii) 試技全体で無効試技数のもっとも少なかった競技者

【例 52 走幅跳決勝の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、女子走幅跳、決勝の結果です。
（少し間を置いて）
- ③ 1等、上から 13番目、甲斐さん、VOLVER、記録 6m36。
2等、 16番目、ヘンプヒルさん、中央大学、 6m28。
3等、 3番目、清水さん、城北信用金庫、 6m23。
- ④ 以下はどうぞご覧ください。

【例 53 走高跳決勝の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、女子走高跳、決勝の結果を発表します。
(少し間を置いて)
- ③ 1等、上から 3番目、京谷さん、北海道ハイテク AC、記録 1m78。
2等、 19番目、平山さん、北部指導者クラブ、 1m75。
3等、 8番目、福本さん、甲南学園 AC、 1m70。
同じく3等、 9番目、仲野さん、早稲田大学、 1m70。
同じく3等、 21番目、津田さん、東大阪大学、 1m70。
6等、 7番目、渡邊さん、ミライトテクト、 1m70。
同じく6等、 23番目、照井さん、聖学院大学、 1m70。
同じく6等、下から2番目、池住さん、愛知教育大学、 1m70。
- ④ 3等から6等までは同じ記録ですが、無効試技の数により順位が決まっています。
- ⑤ 以下はご覧の通りです。

【例 54 走幅跳決勝の成績発表例 2 (同記録)】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、男子走幅跳、決勝の結果をお知らせします。
(少し間を置いて)
- ③ 1等 山下君、筑波大学、記録 16m85。
2等 山本君、順天堂大学、 16m85。
- ④ 1等の山下君と2等の山本君は同記録ですが、2番目に良い記録で順位が決まっています。山下君は 16m84、山本君は 16m82 とわずかの差でした。
- ⑤ 3等 岡林君、国士館大学、 16m61。
4等 池端君、東海大学、 15m81。
- ⑥ 以下はどうぞご覧ください。

[注] 当該記録をマークした跳躍・投てきの回数(○回目)の発表は省略してよい。

【例 55 棒高跳決勝の成績発表例 (同記録)】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、男子棒高跳、決勝の結果をお知らせします。
(少し間をおいて)
- ③ 1等 来間君、順天堂大学、記録 5m40。これは大会新記録です。
2等 岡本君、日本体育大学、 5m20。
3等 澤君、 日本大学、 5m20。
- ④ 2等の岡本君と3等の澤君は同記録ですが、無効試技の数により順位が決まっています。
(2等と3等は同記録ですが、無効試技数の少なかった岡本君が2等になりました)
- ⑤ 以下はどうぞご覧ください。

■混成競技

1 全般的な留意事項

- (1) 記録とともに、その種目の得点をアナウンスする。
- (2) 合計得点を常に意識してアナウンスする。
- (3) フィールド競技の試技は3回で終了するので、一跳一投をアナウンスするよう努力する。
- (4) 手許に採点表、電卓を用意しておく。コンピューターシステムを使用しない大会では、アナウンス席でPC等を利用し、得点の管理をしながらアナウンスしてもよい。

2 紹介

- (1) 原則として1日目・2日目の第1種目時と最終種目時に紹介アナウンスをする。
- (2) 第2種目以降の試技順またはレーン順の紹介は、1日目・2日目の最終種目以外はスクリーンを利用して省略してもよい。各種目の開始時に、それまでの総得点の上位者と得点を簡単に紹介する。
- (3) 1日目の最終種目・2日目の最初と最終種目は、全出場者をそれまでの合計得点も併せて紹介する。

【例 56 第1種目開始前にプログラム記載順に紹介する例】

- ① まもなく10時から、十種競技、最初の種目、100m競走が行われます。
- ② 男子十種競技の日本記録は8307点、スズキ浜松ACの右代啓祐君が2014年のこの大会でマークして、大会記録にもなっています。
- ③ 出場者を紹介します。（併せてスクリーンもご覧ください。）
- ④ 第1組、
第2レーン、片山 和也君、中京大学
第3レーン、武本 泰漢君、国際武道大学
：
第8レーン、日本記録保持者 右代 啓祐君、スズキ浜松AC
- ⑤ 以上7名の出場です。

- [注] 1 スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。
- 2 以前はナンバーを紹介していたが、名前をフルネームで紹介するケースが増えている（ナンバーを紹介すること自体は誤りではない）。

【例 57 後半最初のトラック種目の紹介例】

- ① トラックでは10時から十種競技、2日目の最初の種目、110mハードルが2組（ふたくみ）行われます。
- ② 第1日目終了時点でトップに立ったのはスズキ浜松ACの中村君で4278点。中村君は第3組に出場します。それを208点差で追うのは第1組に出場の順天堂大学の川崎君4070点。さらに第2組に出場のNTNの清水君が3899点で続いています。

- ③ それでは、第1組の出場者を紹介します。
第2レーン、臼杵君、天理大学。1日目を終えて〇〇〇〇点 …
(2人目以降は「1日目を終えて」は省略する)
- ④ 以上〇名の出場です。

3 途中経過・描写等

- (1) 途中経過・描写はトラック競技とフィールド競技のやり方に準ずるが、得点を発表する点に留意する。
- (2) 競技規則では、各種目終了時に各種目の得点と合計得点を発表することになっているが、競技日程が過密な場合や参加者が多数で時間的余裕がない場合は、上位者に限って得点を発表し、全選手の得点はスクリーンに表示する等の工夫をしてもよい。ただし、1日目・2日目終了時には（少なくとも上位8名程度の）合計得点はアナウンスする。
- (3) 最終種目での上位争いや新記録誕生の期待がかかる時は、その得点差を記録に換算した場合の「〇秒差」「〇m差」といったアナウンスをして盛り上げる。
- (4) コンピューターシステムを使用している競技会で、各競技者の記録・得点が即座に入手できるのであれば、最終種目フィニッシュ後、PC等のモニターを見ながら「1着〇〇君、4分35秒13、711点、合計6523点」「2着△△君、4分38秒51、690点、合計6518点」のように順次発表し、最後に「優勝は総合得点6523点〇〇君の逆転優勝です」といったアナウンスをするとよい。

【例 58 途中経過の報例】

- ① Aゾーンでは、七種競技、第3種目の砲丸投、2回目の投てきが行われています。
- ② 次の投てきは桐山さん、モンテローザ。1回目の12m06は665点。
- ③ (記録が表示されて・必要に応じ採点表を見ながら) ただいまの桐山さんの記録は12m44。記録を伸ばして、25点アップの690点。

【例 59 最終種目開始前の上位の得点差を交えながらの盛り上げ例】

- ① スクリーンには七種競技の第6種目のやり投を終了した時点での総合成績が表示されています。
- ② 現在、第1位は中央大学のヘンプヒルさんで5012点、第2位はモンテローザの桐山さんで4853点、その差は159点です。
- ③ この159点は800m競走の時間に換算すると約11秒に相当します。
- ④ 最後に行われる800m競走で桐山さんが11秒以上の差をつけて先にフィニッシュすれば桐山さんの逆転勝利となりますが、800mの自己ベストではヘンプヒルさんが上回っています。
- ⑤ どうぞこの2人の優勝争いにご注目ください。

【例 60 記録の更新（新記録）誕生が期待される場合の盛り上げ方】

- ① 男子十種競技はまもなく最終種目、1500m競走が行われます。
- ② 第9種目のやり投を終了した時点でトップは、スズキ浜松 AC の右代君の7581点。自身の持つ日本記録まであと562点。
この記録の更新のためには、4分59秒50以内で走る必要があります。
- ③ 右代君の1500mの自己ベストは4分26秒68。その更新は十分期待できます。先日行われました日本選抜陸上和歌山大会でも日本記録を更新しましたが、この時は4分45秒53で走っています。
- ④ リオデジャネイロ・オリンピックの派遣設定記録の8311点を超えるには、あと730点。タイムにすると4分32秒11以内ですから、日本新記録を更新して派遣設定記録の突破となるか、大変楽しみなところです。
- ⑤ この最終種目で選手が着ける胸のナンバーカードの数字は、9種目終了時点での総合順位となっています。こちらも参考にご覧ください。
- ⑥ 出場選手を、これまでの総合得点とともに紹介します。
どうぞ大きなご声援をお願いします。
- ⑦ （紹介が終わって）それではスタートにご注目を。

[注] 最終種目では、それまでの総合得点順に特別ナンバーカードをつけて走ることが多いので、その内容もコメントする。

4 成績発表

- (1) 成績発表の際、項目名「時間」「記録」「得点」等は1位の選手のみで、時間を短縮する観点から2位以下の選手では省略する。
- (2) 最終種目終了後の総合順位、合計得点の発表の際は、1位に限って各種目の記録、得点の内訳をアナウンスするとよい。（新記録が誕生した時は必ず行う）

【例 61 プログラム記載順の成績発表例】

- ① 先ほど終了した女子七種競技・走高跳の結果をプログラム記載順に申し上げます。
- ② （少し間を置いて）
大日方さん、中京大学、記録 1m53、得点 655点、
遠山さん、トヨタ自動車、1m53、655点、
川上さん、国士舘大学、1m53、655点...（以下全員）
- ③ 以上でした。

[注] スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。

【例 62 スクリーンの表示に合わせた成績発表例】

- ① 先ほど正面スタンド前で行われた、十種競技・走幅跳の結果をお伝えします。
- ② （少し間を置いて）
中村君、スズキ浜松 AC、記録 7m65、得点 972点。
川崎君、順天堂大学、7m28、881点。
清水君、NTN、7m05、826点。
- ③ （上位数名を発表して省略する場合）以下はスクリーンをご覧ください。

- [注] 1 記録順に発表する場合は、プログラムの記載場所（「上から○番目」等）を加えるとよい。
- 2 スクリーンを使用しない競技会では、風の情報をつけ加えてもよい。

【例 63 総合成績の発表例】

- ① 先ほど 800m 競走で幕を閉じました女子七種競技の総合成績を申し上げます。
- ② （少し間を置いて）
第 1 位、ヘンプヒルさん、5882 点。2 年連続 2 回目の優勝を遂げました。
その内訳は 100m ハードル 13 秒 43、1060 点、走高跳 1 m68、830 点、
砲丸投 11m23、610 点…
- ③ 第 2 位、桐山さん、モンテローザ、5597 点… （以下、入賞選手まで）
- ④ 以上でした。

- [注] 混成競技の記録が公認記録となるための風力の条件は、風速を計測する種目の平均秒速（個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数で割ったもの）は 2m を超えてはならない。

■道路競技

1 全般的な留意事項

- (1) マラソン、駅伝等の道路競技会においては、通常の陸上競技会以上に競技会の性格に応じたアナウンスの内容を十分考える。
- (2) 道路競技会でも、事前の出場選手紹介とフィニッシュ後の成績発表等、通常の陸上競技会とほぼ同様のアナウンスを行うのが一般的。国際大会や選手権大会等では、可能な限り事前に情報を収集して、観衆の興味をひきつけるアナウンスが求められる。主に以下のような情報を収集する。
 - ・大会の1、2ヶ月前に発表される出場選手（招待選手）リストとそのプロフィール（プレス発表資料）
 - ・大会1週間前あたりから主催・後援新聞社等の新聞紙上やHP、雑誌等に掲載される展望記事や個別情報
 - ・大会直前に開催される招待選手の記者会見
 - ・大会のプログラム主催・後援新聞社の記者によるレース展開予想や主な見どころの解説、大会の歴史、コースの概要等が記載されているので、主催者を通じて事前に入手る。
- (3) テレビやラジオによる実況中継がある場合は、当日、競技場アナウンス席でも活用できるように機器類を準備する。（事前に主任会議等で確認し、準備されていないようであれば、アナウンサー側から要請する）
- (4) 途中経過を描写する場合は、手許に道路地図を準備しておくとう便利である。
- (5) コンピューターシステムを使用する大会では、アナウンス席にPC等のモニター設置を依頼する。
- (6) フィニッシュ後に放送局が優勝者のインタビューを行う場合は、事前にタイミングや場所、音声・画像の競技場内への配信等について打ち合わせを行い、連携に漏れがないよう留意する。
- (7) 競技場スクリーン等を使用して協賛企業のCMが放映される場合やスタート前や後にサブイベントが開催される場合等については、主催者や広告代理店担当者と事前に入念な打ち合わせを行う。
- (8) 小規模大会やスタート・フィニッシュが競技場外で行われる場合には、何を・誰に対して・どの程度アナウンスするのか、主催者と事前に打ち合わせを行う。放送機材のチェック（マイク本数、スピーカー設置場所等）を行うことも必要になる。

2 スタート前の紹介等

- (1) 大会の歴史や性格、歴代記録・歴代優勝者の紹介、当該シーズンの他のマラソンや駅伝大会の概況、大会の見どころ（招待選手など主な出場者）、気象状況等を紹介する。
- (2) 代表選手選考競技会を兼ねている競技会の場合は、選考基準や、代表に選ばれるためには当該競技会でどのような成績・記録を出す必要があるかについて解説する。
- (3) 大会の概要等についてはプログラムを活用するほか、出場者の抱負等は直前に開

催される招待選手の記者会見等の情報を利用する。

- (4) 観衆や競技役員の利便を考慮して、区切りのよい時刻に時刻規正を行う。時刻規正はラジオの時報等を活用するが、事前に予告（「1分前」、「30秒前」等）した上で行う。
- (5) 多数の競技者が出場する場合、紹介は招待選手のみとし、スクリーンでの紹介を併用する等の方法により手際よく行う。招待選手や有力選手については、自己最高記録や簡単なコメントをつける。
- (6) 紹介は時間に余裕をもって行う必要があるが、紹介終了からスタートまで間隔が開くと間延びするので、あらかじめ紹介アナウンスの所要時間の見当をつけておく。
- (7) スタート直前に、「1分前」「30秒前」「10秒前」等の予告を挿入する。どの時間の予告までアナウンサーが担当するか、出発係と打合せておく。特に多数の競技者が出場する大会では、出発係がハンドマイクで言うよりアナウンサーがすべて予告した方がスタートラインから離れた競技者にも声が届き、効果的である。
- (8) 危険防止の観点から、スタート前のカウントダウンは行わないよう観衆に注意喚起する。

【例 64 大会の歴史】

- ① 師走の風物詩となっているこの大会は、1970年に始まり、今年で47回目を迎えました。
若手アスリートの登竜門として、長きにわたり実施されている大会です。
大会記録は、ヌグセ君(エチオピア)が2002年(33回大会)でマークした2時間8分16秒です。
- ② 今年からのこの大会が「日本視覚障がい女子マラソン選手権大会」に指定されました。

【例 65 注目選手の紹介】

- ① 出場選手の中で、注目は埼玉県庁の川内 優輝君。6年連続の出場で、2012年と2014年に優勝しています。今月初旬の福岡国際マラソンとレースが続いていますが、「コースも頭に入っている。今できるベストの走りをしたい」とコメントするなど、2年ぶり3回目の優勝を目指すその走りに注目です。
- ② 国際パラリンピック委員会登録の部・女子には、リオデジャネイロ・パラリンピック、視覚障害の部、マラソン銀メダリストで山口県出身、三井住友海上の道下美里さんも出場。好記録が期待されます。

【例 66 招待選手紹介】

- ① プログラム〇ページに招待選手について記載しています。こちらをご覧ください。
- ② 招待選手は7名。その中で注目は旭化成の吉村 大輝君。昨年この大会で2時間13分12秒の自己ベストをマークして4位入賞。優秀な新人に贈られる「貞永杯」も獲得しています。調子は上向きで、「目標は優勝。結果を出してチーム内のライバルに追いつく」と闘志を燃やしており、昨年を上回るタイムに期待がかかります。

【例 67 コースの紹介例】

- ① 東京マラソンは、歴史を感じる建造物や近代的な東京の景観を楽しみながら走ることができるよう、コースを都心に移し、東京を象徴する新しいものへと生まれ変わりました。生まれ変わった新しいコースをご紹介します。
- ② 新宿の東京都庁前をスタートし、靖国通りから外堀通りに入り、東に向かいます。5キロで30mほど下がる緩やかな下り坂です。
飯田橋で目白通りに入り、「世界最大の本の街」とも呼ばれる神保町を抜けた後、日本の道路網の始点、国の重要文化財・日本橋を渡ります。
その日本橋を過ぎたところが10キロ。
安産の神様として有名な「水天宮」を過ぎ、江戸通りを北上すると「スカイツリー」をバックに「浅草寺 雷門」が正面に見えてきます。その「雷門」近くが15キロ。
：
- ③ 35キロ地点を過ぎて、高輪で最後の折り返し。赤穂浪士のお墓のある「泉岳寺」、徳川家菩提寺の「増上寺」、東京タワーを左に眺めながら、40キロ地点を過ぎ、日比谷交差点まで戻ると残り約1キロ。
- ④ オフィスビルの中の街路樹がきれいに並ぶ「丸の内中通り」を抜けると、フィニッシュ地点。42.195キロを走り終えた先で、開業100年、きれいになった東京駅がランナーを迎えます。

〔注〕 競技場発着でスクリーンを使用できる場合は、コースの地図やイラスト等と合わせてアナウンスするとよい。

3 途中経過・描写等

- (1) 競技場をスタートする場合は、トラックを周回して道路に出るまでの間、改めて見どころ等を簡単に紹介する。
- (2) 同一競技場発着コースなど観衆が競技場で競技者のフィニッシュを待つような場合は、各関門等から情報収集を行い、レース展開や途中時間を適宜紹介する。また、テレビ等の実況中継がある場合は、これらの情報も活用する。
- (3) フィニッシュでは、最後の力走をする競技者の描写に加えて、レース経過、日本記録や競技者の自己最高記録との比較等を紹介して盛り上げる。

【例 68 フィニッシュの描写例】

- ① フィニッシュ・テープを最初に切るのはケニアのウィルソン・キプサンゲ。
最初の5キロを15分15秒で入り、30キロまでは15分30秒～40秒のペースで進み、35キロ過ぎからはややペースが落ちたものの、序盤から世界記録も狙えるハイペースで走り切り、間もなくフィニッシュです。
(フィニッシュ後)
- ② キプサンゲ、手許の時計で国内最高記録の2時間03分58秒。世界歴代8位相当の記録で、見事、優勝です。

4 成績発表

- (1) 上位入賞者については、結果（リザルト）が届き次第、アナウンスする。
- (2) スクリーンを使用しない場合は、観衆がプログラムに記入しやすいよう、プログラムページ、プログラムのどの辺りに記載されているかに触れながらアナウンスする。
- (3) 結果（リザルト）に関するアナウンス内容は、トラック競技の長距離種目の成績発表と同じ。好記録が出た際には、その内容もコメントする。

■競歩競技

1 全般的な留意事項

- (1) 競歩競技はトラック競技会と道路競技会で実施される2つの種類がある。トラックで行う競歩競技の場合は、通常のトラック競技の長距離種目のアナウンスの方法でよい。道路競技会の場合は、距離が最長50kmということもあり、長時間にわたることから、競技会の性格や競技の特性など、観衆が飽きずに興味を持てる様にアナウンスの内容を十分考える必要がある。
- (2) 事前の出場選手紹介やフィニッシュ後の成績発表等については、通常の陸上競技会とほぼ同様のアナウンスでよい。但し、フィニッシュ後の歩型違反による失格もありうるので、フィニッシュ直後に順位や記録は確定できない点に注意しなければならない。
- (3) 競歩競技は競技人口が少ないこともあって、一般の審判員や観衆も競技そのものに対する理解が乏しいため、競技規則も含めて丁寧にアナウンスする。レース途中のアナウンスで歩型のルールや、パドル、警告掲示板の説明、ピットレーン適用の場合はその説明などを簡単に行うとよい。
- (4) 道路競技の場合、アナウンス体制については以下の点に配慮する。
 - ① アナウンス席の設置場所は、可能な限りスタート／フィニッシュ地点と警告掲示板が見えるところが望ましい。
 - ② レースが長時間にわたることから、アナウンサーや解説者など複数体制による対話形式が大会を盛り上げやすい（MC担当・競技情報担当（ラップなど）・解説ができる元選手や審判経験者など）。
 - ③ コース全体にアナウンス内容が届くようにスピーカーの設置を依頼する。
 - ④ 複数種目が同時に行われることが多く（例：50kmの競技中に10kmがスタート）、先頭選手の把握と途中計時は困難を極める。トランスポンダーシステムで計時を行う大会では、ラップタイムや途中経過がわかるように、計時情報がリアルタイムで見られるPC等のモニターをアナウンス席に設置するよう、事前に主催者に要請する。
 - ⑤ レース中にBGMを流したり、助力にならないレベルで競歩の技術的な解説を加えたり、大会の歴史に詳しい人物に話をしてもらうような工夫を行うとよい。
- (5) 国際大会や選手権大会等では、可能な限り事前に情報を収集して、観衆の興味をひきつけるアナウンスで会場を盛り上げることが求められる。
道路競技と同様、新聞・雑誌・主催者のHP、プログラムの事前入手等により情報収集を行い、何をアナウンスするか考えておく。必要に応じて解説者等を依頼してもよい。
- (6) フィニッシュ後の優勝者のインタビューを行う場合は、歩型判定が終了し記録が確定した後に行う。

2 スタート前の紹介等

- (1) 大会の歴史や性格、歴代記録・歴代優勝者誰に対して等の紹介。
- (2) 大会の見どころ（招待選手など主な出場者）、気象状況等の紹介。
- (3) 代表選手選考競技会を兼ねている競技会の場合は、選考基準や、代表に選ばれるた

めには当該競技会でどのような成績・記録を出す必要があるかについて解説する。

- (4) 大会の概要等についてはプログラムを活用するほか、出場者の抱負等は直前に行われる招待選手の記者会見等の情報を利用する。
- (5) 国際競歩審判員（IRWJs）が担当する道路競技会の場合、スタート約 20 分前に全競歩審判員をアナウンス席前のコース上に整列させて紹介してもよい（時間に余裕がない場合は、名前だけの紹介でも可）。その際、審判が誰かわかるように帽子の色の説明や、簡単なルール解説やパドルの説明をするとよい。
- (6) 時刻規制やスタート前時間の予告等は道路競技と同じ。
- (7) 紹介については出場選手が多数の場合は、招待選手や有力選手のみの紹介とし、自己最高記録やプロフィールなども手際よくコメントする。
- (8) トラックでの競歩競技は、長距離走と同じタイミンで紹介等を行えばよい。
- (9) 道路での競歩競技では、全選手をスタートラインに整列させた後、スタート 2 分前頃から主要選手数名を少し前に出させて紹介する。スタート前時間の予告の分担や紹介タイミングは出発係とよく調整しておく。紹介する選手に対しても、事前に紹介内容や導線を説明しておく。

3 途中経過・描写等

- (1) コースの 1 周の距離にもよるが、可能な限り 1 キロ毎のラップタイムを紹介する。
- (2) 特に先頭集団のアナウンス席から見えない場所でのラップタイム（2 キロの周回コースの場合の 5 キロのラップなど）は、無線を活用したり、トランスポンダーの計時データを PC 等のモニターで確認するなど、タイムリーにアナウンスできるようにする。
- (3) レース中盤以降では、日本記録や大会記録等とフィニッシュの予測タイムとの比較などを紹介する。ラップタイム換算表を準備しておく。
- (4) 先頭集団を形成している選手のプロフィールや歩きの特徴などを解説しながらレースの描写を行う（助力にならないように技術面の内容は注意が必要）。
- (5) 先頭の選手にだけ注目していると、万が一、その選手が歩型違反で競技の途中で失格すると、次に先頭になる選手（それまで 2 位で歩いていた選手）がわからなくなることがあるので、上位の複数の選手に注目すると共に警告掲示板のチェックも必要になる。レース状況は複数のアナウンサーでチェックすることが望ましい。
- (6) トップ選手のフィニッシュの描写については、見た通りに手許の時計とその時点でのレッドカード情報をアナウンスしてよいが、「歩型判定中につき、正式結果については改めて発表する」といった注釈を加え、確定したものとしてアナウンスしてはならない。

5 成績発表

- (1) 上位入賞者については、歩型違反のレッドカードが確定し、結果（リザルト）が届き次第、速報としてアナウンスする。
- (2) 正式結果の発表はトラックでの長距離種目や道路競技と同じ。

■表彰・式典

表彰・式典は競技とは別の観点で注目度も高く、細心の注意を払い、誤りのないように十分に注意する。

1 共通事項

- (1) 必要に応じて原稿を作る。特に開閉会式や栄章授与式は必ず作成する。
- (2) 受賞者の名前、所属の読み方を確認し、原稿には振り仮名をつけておく。受賞者の過去の優勝歴（受賞歴）や他種目の入賞状況等を調べ、コメントできるように準備しておく。
- (3) 表彰者（プレゼンター）の氏名、肩書、読み方を確認する。表彰者の立場によって、肩書等の言い方、敬称の有無が異なる。
 - ① 原則、肩書は氏名の前または後につける（主催・共催者）
「所属＋氏名＋肩書」 例）公益財団法人日本陸上競技連盟 横川 浩 会長
「所属＋肩書＋氏名」 公益財団法人日本陸上競技連盟会長 横川 浩
 - ② 所属と肩書を一つとして紹介する場合は名前の後につける（主催・共催者）
「名前＋肩書」 例）〇〇△△内閣総理大臣、△△〇〇東京都知事
 - ③ 名前の後に敬称が必要な場合もある（協賛者・来賓）
「所属＋肩書＋氏名＋敬称」
例）本大会に協賛いただいております〇〇産業株式会社
代表取締役社長 △△△△ 様
 - ④ 複数の肩書がある場合でも一つだけを紹介することとし、事前に本人（又は関係者）にどの肩書で紹介すればよいか確認しておく。
 - ⑤ 現役の日本代表選手等が務める場合には、その趣旨を考慮し、プロフィール等を紹介して盛り上げる。
 - ⑥ 「表彰は〇〇が行います」「表彰者は〇〇です」「プレゼンターは〇〇です」や、「花束は〇〇が渡します」「花束授与は〇〇です」「フラワープレゼンターは〇〇です」等いろいろな言い方があるが、同一大会ではアナウンサー全員で統一する。
 - ⑦ 記録（数字）の言い方は、P.5～6に記載の内容に準ずる。
- (4) 音楽を使用する場合
 - ① 事前に曲を聞き、音量を調整する。曲のどのあたりから話し始めるかを確認する。
 - ② 音楽担当がいれば、原稿をもとに音楽をかけるタイミング等を打ち合わせておく。
 - ③ 使用する音楽の著作権を確認しておく。特に TV 中継等のある大規模大会では注意する。
- (5) スクリーンを使用する場合には、スクリーンにタイトルや成績等を出すタイミングを電光掲示（大型映像）係と事前に打ち合わせておく。また表彰時に入賞者やフィニッシュ時の映像（リプレイ）を映せばより効果的である。
- (6) 報道関係者が場内に入ることが多いので、必要に応じて報道係とも連携する。

2 表彰

- (1) 表彰は成績発表後に行う。
- (2) 決勝リザルトは別に整理しておき、いつでもアナウンスできるようにしておく。

- (3) 他の競技の進行状況を見ながら、表彰実施のタイミングをよく考え、受賞者を長時間待たせないようにする。
表彰係が受賞者に対し、表彰の準備が整う時間に集合するよう指示することが多い。
- (4) 表彰係との連携
- ① 入賞者の表彰台への誘導の仕方、表彰する順番（1位からか、3位からか。リレーは一人ひとりか、代表者か）、渡すもの（賞状、メダル、優勝杯）、渡す順序、部旗の掲揚、退場の流れ等、表彰のやり方について事前に十分に打ち合わせをしておく。
 - ② どの種目をどのプレゼンターが担当するのか、プレゼンターの所属や肩書、優勝杯（盾）等の寄贈者名等のリストを作成してもらう（ふりがな付）。
 - ③ 準備が整ったら無線等で連絡をしてもらい、アナウンサーの指示の下、表彰を始める。
- (5) 単独種目で3位まで表彰を行う場合、開始アナウンス～関係者入場～表彰～終了アナウンスまで、1分30秒程度が目安となる。

【例69 インターハイの例】

- ① メインスタンド前では、女子走幅跳の表彰が行われます。
- ② 表彰は、〇〇（都道府県）高等学校体育連盟陸上競技専門部〇〇〇〇部長が行います。
- ③ 第1位、高良 彩花さん、園田高等学校、6m00（6メートル・れい）。
賞状、メダルが贈られます。
- ④ 第2位、古谷 夢華さん、山北高等学校、5m98。
第3位、野口 理帆さん、倉敷中央高等学校、5m95。
第4位 竹内 真矢さん、摂津高等学校。
（4位以下は記録を省略し時間短縮を図ることも可）（以下8位まで）
- ⑤ 優勝いたしました高良さんの栄誉をたたえ、「高体連の歌」を演奏し、園田高等学校の校旗を掲揚します。掲揚台にご注目ください。
- ⑥ （演奏終了後）元の位置にお戻りください
- ⑦ 以上で女子走幅跳の表彰を終わります。おめでとうございます。

【例70 日本選手権の例】

- ① ただ今から、女子200m競走の表彰を行います。（関係者入場開始）
- ② 賞状、選手権章プレゼンターは、公益財団法人日本陸上競技連盟理事、鈴木一弘競技運営委員長です。またフラワープレゼンターは〇〇小学校〇〇さんです。
（関係者が表彰台の前に整列したら）
- ③ 第3位。市川 華菜さん、ミズノ、23秒86。
第2位、齋藤 愛美さん、倉敷中央高校、23秒46。ジュニア日本新記録、日本高校新記録をマークしました。
本年度女子200m競走、選手権獲得者は、福島 千里さん、北海道ハイテクAC、22秒88。見事な大会新記録での優勝です。
- ④ 以上で女子200m競走の表彰を終わります。おめでとうございます。
スタンドの皆さん、もう一度、大きな拍手をお願いします。

- 〔注〕
- 1 入賞記録を紹介する際には、装飾語をつけすぎないように注意する。
 - 2 表彰対象者の記録までアナウンスした後に、授与されるもの（賞状、選手権章、メダル、花束、記念品等）の紹介をしてもよい。
例) 優勝した〇〇君には、賞状、選手権章、協賛いただいております
□□株式会社よりご提供いただきました記念品が贈られます。
 - 3 プレゼンターが一つ前の順位の選手に賞状等を渡した後、移動するタイミングを見ながら、次順位の選手の表彰コメントを話し始める。

3 式典

- (1) 式次第を必ず用意する。主催者側で用意していることが多い。
- (2) 事前確認
 - <開会式>
 - ・優勝杯（盾）返還の際のレプリカの有無
 - ・選手宣誓の際のマイクの位置は誰が移動するか
 - ・参加校の部旗の旗手の集合の有無
 - <閉会式>
 - ・対校戦等の表彰内容、表彰方法
 - ・優秀選手賞がある場合は、該当選手の氏名（ふりがな）、所属、種目、記録等の記載されたリスト
- (3) 式典の中で挨拶をする人が続く場合は、前の人が元の位置に戻ったのを確認してから、次の人の紹介を始める。
- (4) 小規模大会では選手の整列の指示からアナウンサーが行うことが多いので、式の準備状況を確認して、そのタイミングを図る。
- (5) 国体やインターハイのように式典参加者が多く、長時間にわたって行われる場合は、アナウンサー2名体制で交代しながら行ってもよい。
- (6) 秩父宮章授与式のように受賞者が多く、一人ひとりを紹介しながら表彰が行われる場合は、横にアナウンサーがもう一人付いて合図をし、タイミングがずれることのないよう、受賞者を間違えることのないようにするとよい。
- (7) 式典終了時の結びの言葉・式典参加者を解散させる際の言葉も工夫する。
例) 「以上で開会式を終わります。皆さん、競技の準備に入ってください」
「以上で閉会式を終わります。最後に皆さんの健闘をたたえ合い（今後の更なる活躍をお祈りして）、拍手で解散とします。お疲れ様でした」

■ その他のアナウンス

競技運営上、必要な連絡事項や場内への注意喚起等が必要な場合は、簡潔にわかりやすくアナウンスする。

1 アナウンス要領

【例71 時刻の規正】

あと1分で9時になります。役員・選手の皆さんはお手許の時計をお合わせください。ただいま9時です。本日はこの時計で競技を進行させていただきます。

- [注]
- 1 競技開始1時間前、30分前のように切れ目のよい時刻に行く。ラジオ、携帯電話を使用するとよい。
 - 2 規正を行う時刻の30秒前から電話の時報やラジオの音声をマイクで拾いながら流してもよい。

【例72 定時気象観測】

12時現在のグランドコンディションです。
天候、晴れ。気温、23度。湿度、45%。北北西の風、1.5mでした。

- [注] スクリーンに表示する場合は、タイミングを合わせてアナウンスする。

【例73 競技日程の変更】

競技日程の変更の連絡をします。10時30分に予定されていた男子4×100mリレー予選は、出場チームの関係で行わないことになりました。
決勝は予定通り13時30分から行います。

【例74 閉会式の連絡】

間もなく閉会式が行われます。各校の皆さんは、開会式と同じ隊形で整列してください。

【例75 競技開始前の練習（投てき種目）】

危険防止のため、投てき種目の練習は必ず競技役員の指示に従って行ってください。

【例76 危険防止の呼びかけ】

間もなくフィールドでは、ハンマー投決勝が始まります。ハンマーの行方には十分気をつけてください。また出場選手の皆さんは、競技役員の指示に従って練習を行ってください。

【例77 選手呼び出し】

選手のお呼び出しです。男子 100m競走予選第3組 4レーンを走りました〇〇君、至急、本部までお越しください。

【例78 被表彰者の呼び出し】

各種目の決勝で第3位までに入賞した選手は表彰を行いますので、競技終了後、直ちに本部表彰係までお越しください。

【例79 ハードルのセッティングの協力依頼】

次のトラック競技は男子110mハードルです。お手すきの役員・補助員の方はハードルの設置にご協力ください。（終了後であれば「ハードルの撤去に」）

【例80 遺失物のお知らせ】

落とし物のお知らせです。フィニッシュ付近にスパイク・シューズが落ちていました。心あたりの方はアナウンス席までお越しください。

[注] 拾得物の管理場所（アナウンス席、大会本部、T I C等）は大会に応じて

【例81 車の移動】

次の車は大至急移動願います。正面玄関前に駐車している赤のパジェロ 練馬、え、300、56-44。大至急移動願います。

[注] 車種と色をアナウンスするとわかりやすい。

【例82 競技会のPR】

ご案内します。来る5月21日に等々力競技場でSEIKOゴールデンングランプリ川崎が行われます。日本を代表する選手や世界で活躍するトップクラスの選手が、多数出場します。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

【例83 プログラムの販売】

ご案内します。プログラムを500円で販売しています。ご希望の方は正面玄関でお買い求めください。

[注] 販売場所（正面玄関前、受付、大会本部、T I C等）は大会に応じて

【例84 競技場美化のお願い】

スタンドの皆様をお願いします。ゴミは各自、お持ち帰りください。競技場の美化へのご協力、よろしくお願ひします。

IV 研究編

1 競技会の性格や規模に応じたアナウンスのあり方

陸上競技会はシーズンを通じて数多く開催されるが、それぞれの競技会の性格や位置づけ、規模、目的等に応じたアナウンスが必要になる。

最近ではEP（イベント・プレゼンテーション）の一端を担う大きな役割も求められている。

(1) 記録会

- ① 出場者・組数が多いが故に、アナウンサーの基本動作の良し悪しが問われる。
- ② 出場者が多く、競技日程通りに競技会を進めていくことに気をとられ、単調なアナウンスになりがちだが、アナウンス内容を取捨選択することで描写を行う時間を増やす等、盛り上げるための工夫を行う。
 - ・トラック競技の参加者が多い場合は組数、人数の紹介のみにとどめる。
 - ・成績発表は1着（1等）のみを発表し、2着（2等）以下は掲示板を見てもらう等の便宜的方法をとる。
 - ・フィールド競技の各ラウンド終了時点での上位選手と記録を紹介する。

(2) 小中学生・定通制大会等

- ① 初心者が多いので、一般的に懇切丁寧にアナウンスする必要がある。
- ② 招集時刻、招集場所など競技注意事項に記載されている事項であっても何回かアナウンスして、保護者や引率者への周知徹底を図る。
- ③ 小中学生大会は、陸上競技の普及・強化の観点から重要な位置づけにあり、「全国大会で名前が呼ばれた」「陸上競技で頑張った」「これからも続けたい」と思わせるようなアナウンスが求められる。選手の記憶に残る盛り上げも大事な要素であり、可能な限り予選から氏名を紹介する等の配慮も必要になる。

(3) 選手権大会

- ① 日本選手権、日本学生選手権等トップクラスの選手が多数出場し、ハイレベルな争いになる。観衆の記録への期待も大きく、「選手と観衆の一体化」を意識したアナウンスが求められる。
- ② 好記録も期待できることから、あらゆる場面を想定した入念な準備、大規模大会ならではの関係部署との緊密な連携が必要になる。
- ③ 競技日程を遵守する必要があるが、好記録が出た際のフィールド競技とトラック競技の兼ね合いや、表彰、トップ8の発表タイミング等、複雑で高度な判断を求められることが多い。

(4) 対校戦

- ① 対校戦は2チーム（校）の対抗で行われるもの（例：早慶戦）、数チーム（校）が集まって行われるもの（例：インカレ）がある。各種目の順位で得点を決め、その総合得点で勝敗や順位を決めるため、選手個々の成績もさることながら対校

得点争いに重きが置かれる。アナウンスに際しては、どちらか特定のチーム（学校）に偏った内容にならないよう注意する。

- ② 各種目の結果発表の際には得点を発表する。得点累計を手許で集計するように心がけ、途中で対校得点（累計点）を発表しながら盛り上げていく。

【例 85 得点発表例】

- ① この結果、この種目の対校得点は、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点です。
- ② ここまでの総合得点は、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、〇〇大学〇点となります。

- ③ 特に最終種目で優勝が決まる場合は、最終種目開始前に得点累計を発表し、最終種目の順位が優勝争いにどのように影響するかについても解説する。

【例 86 最終種目開始前の得点経過紹介例】

- ① ここまでの総合得点は、筑波大学が 96 点でトップ。続いて第 2 位が順天堂大学で 95 点、その差はわずかに 1 点です。
- ② 優勝種目数は、ここまで筑波大学、順天堂大学ともに 6 種目。
- ③ 従いまして、最終の 1600m リレーで、筑波大学と順天堂大学のうち先にフィニッシュした方が総合優勝となります。

- ④ 対戦成績（過去どちらが何勝しているか、去年はどちらが何点で勝利を収めた等）を整理して随時アナウンスするほか、大学記録や出場選手の自己ベスト等の情報を事前に入手して、得点争い以外の話題も提供するとよい。

(5) 国体

- ① 全国規模の競技会でさまざまな観衆が観戦する。初めて陸上競技を観る観衆も多いことから、種目の解説やルール、出場者のプロフィールまで平易な言葉で丁寧に解説する必要がある。
- ② 都道府県対抗のため、公平なアナウンスを心がける。
- ③ 公認マスコットが登場し、余興的なイベントの進行を務めることもある。

(6) 国際大会

- ① 出場選手は世界のトップクラスであり、観衆も世界レベルの競技を堪能したいとの意識が強い。
- ② 国際ルールが適用され、TV 中継が入る等、通常の競技会運営とは異なるので、関係者間での入念な準備が必要になる。
- ③ 出場選手のプロフィール等、事前に調べたことを全て話したくなるが、アナウンサーの余計な解説や描写が邪魔になる場面もある。「競技を見せる（魅せる）」ことを意識する。
- ④ 外国人アナウンサーが入る場合、（日本語で）話せる時間が短くなり、連携も難しくなるが、進行担当総務員や EPM（イベント・プレゼンテーション・マネージャー）の指示に従ってアナウンスを行う。

- ⑤ 外国語が話せなくても、外国人アナウンサーとは単語を並べ、身振り手振りである程度の意思疎通はできるので、過度に心配する必要はない。
- ⑥ プロのアナウンサーが入り、対話形式で見どころや解説、競技の描写を行うこともある。

(7) 室内大会

- ① 観客が競技者を近くで見ることができるという特性を生かし、種目の解説や技術、選手の経歴等を紹介して大会を盛り上げる。
- ② 室内競技のルール、屋外で行う競技のルールとの違いも理解しておく。
- ③ 音響効果が屋外に比べてよいので、音量や共鳴等を考慮したアナウンスを行う。

2 競技会ディレクターとしてのアナウンサーの役割

大規模競技会では進行担当総務員が配置され、競技進行の全体調整を行うようになった。一方、進行担当総務員が配置されない大会では、トラック競技とフィールド競技のどちらを優先するか、表彰をどのタイミングで入れるか等についての状況判断をアナウンサーが行っており、事実上のディレクターの役割を果たしている。

(1) 連携

- ① アナウンサーは競技会全体に気を配り、目の前の状況を注意深く観察するとともに、次の展開を予測して先を読んだ適切な判断が求められる。
- ② 関係部署とアナウンサーが主要部署と直接コンタクトできる体制（無線配置等）を作る。
- ③ アナウンサーから関係部署に対する一方的な指示ばかりではなく、双方向のコミュニケーションを重視する。
- ④ アナウンサー間でも声をかけ合い、相互連携に留意する。
- ⑤ どのような場面で何を優先させるか等の判断は、マニュアル化できるものではなく、その場で臨機応変の対応が求められるが、基本的な考え方やよくある事例への対応方法は関係部署間で認識を合わせておきたい。

(2) 事例

- ① 表彰とトラック競技スタートの重複
 - ・ 競技日程や進行状況にもよるが、トラック競技がスタート準備完了前（スターティングブロックの調整中やスタート練習中）であれば、表彰を行うことが多い。
 - ・ 3位までの表彰であれば、所要時間は1分30秒程度が目途となる。
 - ・ 通常は無線で出発係等の関係部署へ表彰を行う旨を連絡するが、関係部署へ個別に連絡する時間的余裕がない場合は、「男子400m競走決勝の前に、メインスタンド前で、女子走幅跳の表彰が行われます。期待のトラック競技はその後です」等のアナウンスで対応する。
- ② 表彰や成績発表と長距離種目レースの重複
 - ・ 1000m単位のラップタイム発表直後に表彰や成績発表を始める。
 - ・ 決勝レースの後半や、レースが白熱している場合には、観衆の意識をレースに集中させるよう、表彰や成績発表は行わない。

- ③ 好記録誕生と表彰や成績発表の重複
 - ・好記録が誕生して場内がその余韻に酔っているような場合、他種目の成績発表や表彰を行うことには注意する。直後に無節操なアナウンスをすると、せっかくの盛り上がり水を差すことになる。
- ④ フィールド競技の重複
 - ・複数のフィールド競技が同時進行する場合、どのタイミングでどちらを重点的にアナウンスするかを選択する必要がある。
 - ・注目選手の試技を別にすれば、メリハリなく複数の競技を短時間で交互にアナウンスすると観衆は混乱し、選手の意識の集中にも悪影響を及ぼす。
 - ・長さを競う競技は「1～3回目の試技までは各ラウンドが終了したタイミング」で、高さを競う競技は「バーが上がるタイミング」で重点的に経過や状況を説明するとよい。
 - ・長さを競う競技の「6回目の試技」や、高さを競う競技で「残りの人数が2～3名」になった時はその競技の描写を優先し、他のフィールド競技のアナウンスを控える。
 - ・フィールド競技前半で複数種目の描写を続ける場合には、「3名程度のA種目の描写」→「3名程度のB種目の描写」とした方が、トラック競技（短距離）の組を挟む場合でも「トラック1組→フィールドA→トラック2組→フィールドB」とした方が、観衆には注目すべき競技がわかりやすく、ストレスなく聞くことができる。
 - ・有力選手の試技が重なった場合や、複数の競技で好記録が期待される展開になった場合には、異なる競技のコメントを続けるとしても「一呼吸」入れてから話し始める。

3 競技場の設備環境に応じた工夫

(1) コンピューターシステムの活用

- ① 大規模な競技会ではアナウンス席にコンピューターが配備され、リアルタイムな途中経過等の情報をPC等で見るできるようになった。コンピューターを使いこなしてアナウンスすることが求められる。
- ② 次ラウンド進出のプラスの選手の発表等、発表すべき情報の見落としや読み落としがないように、チェックリストを用いて管理するとよい。特に抗議に備え、結果の発表時刻はアナウンサーが控えておく。
- ③ トラック競技では2着以下の記録も順次表示されていくので、「2レーンの○○君も日本新記録をマーク」「3レーンの△△君もA標準記録突破」といったコメントは即座にアナウンスするようにしたい。
- ④ フィールド競技では計測の都度、記録表示が変わるので、フィールド競技の描写中に記録が伸びたり順位が逆転したら、すぐにアナウンスする。

(2) 競技場の形状を考慮したアナウンス

- ① 大規模なスタンドがあり屋根がついているような場合には、アナウンスの音が反響して競技者や観衆の耳に届く。話すスピードや、言葉と言葉の間の「間」が特に重要になる。早口のアナウンスでは何を話しているのか、聞き取れない。

- ② 競技場の構造、設備、音量等を十分理解して、競技場内の各所でどのように聞こえるかを競技開始前にチェックする。曲走路付近ではアナウンスが聞き取り取りにくいことが多い。
 - ③ 天候（主に気圧、湿度）によっては同じ音量（声量）でも伝わる距離や聞こえ方が異なるので、複数日で行われる競技会では、前日と同じように話しても観客席では異なって聞こえることがある。
 - ④ アナウンス席は競技場全体が見渡せる場所に設置することが望ましい。ワイヤレスマイクが準備できれば、フィールド競技のピットから直接アナウンスしたり、表彰アナウンスを表彰台の近くで行う等の工夫ができ、より臨場感のあるアナウンスが可能になる。
- (3) スクリーンの活用
- ① スクリーンは音声による情報伝達のアナウンスとは異なり、視覚を介した情報伝達であることから、観衆がそれに注目しなければ情報は伝わらない。情報が表示された旨をアナウンスでフォローすることが必要であり、大型映像（電光掲示）係と十分な連携をとる。
 - ② 選手紹介や下位記録の発表をスクリーンのみでの表示として、アナウンスの省力化を図ることもできる。文字やイラストで表示した方がわかりやすい情報もある。

4 競技会を盛り上げるために

- (1) 国体、国際大会等いろいろな観客が集まる競技会では、陸上競技ファンを作り、陸上競技の理解を深めてもらうために、各種解説を行うことが求められる。
 - ① 種目について
種目の特性、技術（ハードル、3000m S C、競歩、リレー、走高跳、棒高跳 等）
 - ② 競技場について
全天候舗装、スタート位置 等
 - ③ 器具、器材について
タイマー、光波計測機、途中経過表示装置、砲丸、ハンマー、やり 等
 - ④ 選手について
自己記録、経歴、技術、身長 等
 - ⑤ 見どころ
出場選手の過去の成績、記録、プロフィール 等
- (2) さまざまな情報を集め、その中のエッセンスを話すということを意識する。何日も前から準備をしてきたのに実際にはほとんど話せないということも往々にして起こるが、競技会の流れに乗って、話す内容を取捨選択することも必要になる。
- (3) インターネットを通じて記録、ランキング、過去の対戦成績等の情報収集は可能であり、選手個人や所属チームの HP 等にはより詳細な情報も公開されている。
- (4) ワイヤレスマイクを持ってピット脇で競技の描写を行う際には、競技の妨げにならない程度に、選手本人から情報を聞き出すこともできる。
- (5) 各種情報は「見どころ」として競技の合間やスタート前にアナウンスする等、伝えるタイミングも意識する。
- (6) アナウンサーが無理に盛り上げようとせず、事実を淡々と伝えるだけでも競技会が盛り上がる可能性があることを忘れてはいけない。

5 フィールド競技の描写を充実させるために

「アナウンスがトラック競技に偏りがちである」という指摘は多く、フィールド競技の描写の充実アナウンサーにとっての大きな課題である。本冊でも「Ⅱ 基本編」で「トラック競技偏重を避けるためには」としてこの問題に触れているが、ここでは逆に「フィールド競技の描写を充実させる」という観点から対応方法をまとめた。

(1) 種目の重複時の対応

- ① ともするとトラック競技を優先しがちだが、「トラック競技予選よりはフィールド競技決勝優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方を統一しておく
- ② 複数種目が同時に実施されることが多いので、種目ごとに専担のアナウンサーを配置する。
- ③ 競技開始が同時刻の場合でも、練習が先に始まった種目や砲丸投のように競技開始が早まりがちな種目から順次、選手紹介を行うとよい。
- ④ 自分の担当種目だけに集中せず、他種目の進行状況も把握し、どの競技を優先してコメントするかをアナウンサー間で常に意識し合う。
その時間帯に担当からはずれている他のアナウンサーが競技進行全体に目を配り、「トラックは選手がスタートラインに出てきた」「フィールドは〇〇が大会記録へ挑戦」等の声をかけるとよい。
同一アナウンサーが集約して競技の進行状況を紹介する方がよい場合もある。
- ⑤ 助走路としてトラックまで使用する走高跳・やり投とトラック全周を使うトラック競技のスタートが重なる場合は、出発係と無線で連絡を取りながらどちらを先に行うかを決めるとよい。
- ⑥ 可能であれば、アナウンサーの立場からフィールド競技の紹介や描写がしやすい競技日程（競技開始時刻が重ならないような日程等）を組むよう、競技会の要項作成やプログラム編成を行っている準備段階で主催者に依頼してもよい。

(2) 機器に関して

- ① 一眺一投の描写を行うために競技の進行をリアルタイムで把握できるよう、アナウンス席にはアナウンサーの人数分のPC等が配置されることが望ましい。
- ② コンピューターシステムがなくても競技実施地点に記録表示器やトップ8板が配置されれば、アナウンサーが視認により描写することが可能になる。
以下のような問題が起こらないようにするためにも、事前にフィールド審判員と十分な打ち合わせを行う。
 - ・補助員、審判員が記録表示器の前に立つため、記録が判読できない
 - ・記録表示器がアナウンス席から見えない
 - ・表示される記録が、瞬時のうちに消えてしてしまう
 - ・記録表示器があるのに使用されない
- ③ アナウンサーとフィールド審判員との間に無線等による連絡手段を確保する。
- ④ コンピューターシステムを使用しない大会では、ワイヤレスマイクと無線を持ち、積極的にピットの近くで描写を入れる。

(3) 他部署との連携

① 競技開始合図のタイミング

- ・競技開始時間がトラック競技のスタート時間と重なっている場合は、タイミングよくフィールド競技の紹介ができるよう、出発係との連携を心がける。
- ・アナウンサーに何の連絡もないままに予定時刻より早く競技が開始されることがあるが、フィールド審判員からも連絡が入るよう連携を密にする。
- ・フィールド競技の準備ができているようであれば、総務や審判長の了解の下、早目に競技を開始してもらうこととし、トラック競技のスタートと重ならないタイミングでフィールド競技の選手紹介を行う。

② 呼び出しのタイミング

- ・特に砲丸投では、前投てき者の記録が表示されて記録表示器が1回転している間に（電光掲示盤に表示されるか、されないかのタイミングで）、次の投てき者が呼び出されて試技が行われることがある。フィールド審判員に記録表示器が1回転する（電光掲示盤にきちんと表示される）のを確認してから、次の投てき者を呼び出すよう要請しておく。

【参考】 イベント・プレゼンテーション・マネージャー（EPM）

EPMは競技規則第124条〔国際〕に以下のように定められ、国内では「世界陸上2007（大阪）」で初めて配置・運用された。その後も国内で開催される国際大会で設置されているが、「東京オリンピック2020」が近づく中、その役割が注目され、国内大会への応用も検討課題となりつつある。

イベント・プレゼンテーション・マネージャーは競技会ディレクターと共に競技会の各種目やその他の演出準備を組織代表および技術代表と協力して計画する。また、その計画が達成されるよう、競技会ディレクターおよび関係する代表と協力して関連する諸問題を解決する。イベント・プレゼンテーション・チーム内の連携についても、情報伝達システムを利用して監督する。

また、IAAF Technical Delegate Guideline（2013/12）では、EPについて以下のように定義されており、その役割が「『観衆の目線に立って』競技会をいかに盛り上げていくか」にあることを理解する必要がある。

Event Presentation (or Sport Presentation as it is sometimes referred to) aims to **E**ducate, **E**ngage and **E**ntertain live audiences at athletics meetings.

（意訳）

EPは競技場でナマで競技を観戦する観衆が

①競技を理解し、②一体感を覚え、③楽しんでもらう ことを目的とする

(1) EPMの役割

EPMの役割については、「音楽や映像を使って競技会を演出する仕事」と国内では理解されやすいが、実際にIAAFが求める職務内容は広範囲かつ専門的な内容に踏み込んでいる。

- ① 「イベント・プレゼンテーション基本計画（EPプラン）」の策定
 - ・場内アナウンス、進行連携（TV放送・表彰・タイムテーブル管理）、電光掲示板、映像、スコアボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ「プレゼンテーション実施計画」を作成し、主催者（組織代表・技術代表）の承認を得る。
- ② EPプランに基づく関係部署との連携確認と、事前打合せの実施
 - ・EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行ない、それぞれの部署の準備状況について総務と協働して進捗管理を行う。
- ③ 競技進行についての準備
 - ・事前に分刻み進行表を作成し、競技会で起こり得る可能性のある事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。
- ④ 競技会開催中の役割
 - ・競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EPプランと事前に策定した分刻み進行表に沿って競技会をコーディネートする。

(2) 観衆が満足する競技会演出

競技場へ足を運び観戦している観衆や、テレビを通じて観戦している観衆が満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露出来る競技会にするために、特に留意すべき点は以下の通りである。

① 「常に何かが起こっている空間」の演出

- ・競技会ではトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に「何も行われていない」状況が起こることがある。その様な状況は事前に策定する分刻み進行表である程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観衆が沈黙している事がないようにタイムテーブルを事前に調整し、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合には、臨機応変に対応することが求められる。

② 観衆にとって分かりやすい競技会の演出

- ・多種目が同時に展開する競技会において、観衆が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下、「今注目の種目は何か」を正確に把握して選び、アナウンスなどでガイドして注目させるという役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合にはトラック競技の進行を一部留め置くという措置も選択する。

③ テレビ中継との連携

- ・テレビ中継が生放送（LIVE）行われている場合には、テレビ局のディレクターと連携し、中継が円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている陸上ファンへのサービスにも配慮する。テレビ局とは事前に策定する分刻み進行表などで予め打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。
- ・テレビ局側の意向を踏まえつつも、競技規則の順守、全体のコントロールは EPM が行うという役割分担の明確化が重要である。

陸上競技アナウンサーのしおり（2017年度版）

2017年6月15日発行

編集・発行 公益財団法人 日本陸上競技連盟 競技運営委員会

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

TEL 03-5321-6580

編集委員 片岡 裕介、中島 剛、黒澤 達郎、片岡 典子
協力 今村 直美、熊谷 憲、桑原 伸子、塚田 美和子、
中村 拓也、丹羽 智行